

指導と評価の一 体化

上川教育研修センター

「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」

～求められる資質と能力を育む指導と評価～



第18次研究 2年次

47

研究紀要

令和4年3月



研究紀要第47号の発刊にあたって

上川教育研修センター所長 福家尚

一昨年来、新型コロナウィルスの感染拡大が産業・経済等に大きな影響を与え、私たちの日常生活も著しく変わりました。そして、多くの子どもたちが通う学校にも変化を余儀なくされているところです。

感染防止に伴い教職員の研修の在り方も変わっています。

最初の頃は、各教育関係機関・団体で、公開研究会の自粛や中止などの措置も取りましたが、2年目から集合を避けるため、オンラインによる講義研修や協議・交流を導入し、児童生徒の研究授業については、ビデオ視聴を取り入れ参観できるよう工夫されています。

あえて遠くから集まる必要のない会議や研修のオンライン化は有効であると思います。本センターの講座や教育講演会では、オンライン開催したことにより、より多くの方々に参加していただくことができるようになりました。

このように画像・動画を介しての研修が一定の成果を挙げ、価値を見い出してまいりましたが、元より教育は、人と人との「直に」向き合い、かかわり合うことを前提に営まれるものと考えております。その触れ合いの中で、周りの反応やその場の空気感をリアルタイムで把握し、私たちは自己の学びを形成してきたからです。

当研修センターでは今後も集合・対面研修を基本とし、状況や内容に応じてオンライン研修を取り入れるといった、ハイブリッド型の研修を目指していきたいと考えます。この基本のスタイルについては、授業参観や研究協議に参加された多くの方々の声から、センターに求められていることとして強く実感しているところでもあります。

感染防止措置の中、今年度も、講師の先生方、授業会場校や研究協力校の校長先生をはじめ職員の皆様のひとかたならぬ御理解と御協力をいただき、センター事業を実現してまいりました。皆様の熱い思いと温かい御配慮に心から感謝と敬意をお伝え申し上げます。

この度、研究事業として今年度取り組んでまいりました理論研究と実践検証の考察及び第18次2年目の成果と課題をまとめ、研究紀要第47号を発刊することとなりました。子どもたちの豊かな学びのために、授業改善の参考資料として役立てていただければ幸いです。

最後に、これまで御指導・御助言を賜りました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げ、発刊に当たっての御挨拶といたします。

(令和4年3月31日)

目次

発刊に当たって

第Ⅰ章 研究の概要	1	研究主題及び副主題	1
	2	求める児童生徒像	
	3	研究の仮説	
	4	研究内容	
	5	研究の進め方	
	6	研究計画の概要	
	7	研究の全体構造	
第Ⅱ章 研究内容			5
	1	第18次研究のねらい	
	2	研究の具体	
第Ⅲ章 研究員の授業実践			
○旭川市立東明中学校 第1学年 外国語科			19
		授業者 久保田 竜平	研究員
○美瑛町立美瑛東小学校 第1学年 国語科			33
		授業者 石塚 大輔	研究員
第Ⅳ章 研究協力校の授業実践			
○旭川市立永山南中学校 第1学年 数学科			43
		授業者 青木 俊也	教諭
		研究部 加納 宏康	教諭
○旭川市立陵雲小学校 第6学年 国語科			58
		授業者 森下 ほのか	教諭
		研究部 東海林 敦子	教諭
第Ⅴ章 研究の成果と課題			73
あとがき			

第Ⅰ章 研究の概要

1 研究主題及び副主題

2 求める児童生徒像

3 研究の仮説

4 研究内容

5 研究の進め方

6 研究計画の概要

7 研究の全体構造

1 研究主題及び副主題

主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方

～求められる資質と能力を育む指導と評価～

(1) 主題設定の理由

グローバル化の進展やAIの急速な進化、絶え間ない技術革新など、さらに加速化・複雑化する社会の中、未来を切り拓く人材育成が求められている。

学校教育においては、全ての児童生徒が持続可能な社会の創り手として予測不可能な未来社会を自立的に生きていくために必要な資質・能力を育成することが求められている。その児童生徒に育成を目指すべき資質・能力は、次のように描くことができる。

- ・自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成する。
- ・変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する。

このため、目指すところを社会と共有・連携していく「社会に開かれた教育課程」を実現するとともに、全ての児童生徒の力を最大限に引き出すため、教師が児童生徒一人一人の変容を見取りながら、それぞれの置かれている状況に応じて最適な学びが可能となるような環境づくりや授業の改善・充実を図ることが重要である。

こうした中、新しい学習指導要領の全面実施を迎える、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善の取組を活性化していくことは、児童生徒一人一人が「どのように学ぶか」という学びの質や深まりにつながるものとして重要であり、「カリキュラム・マネジメント」と連動して全ての教育活動の質の転換を図ることにつながる。また、この「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善において、中核的な役割を担うのが指導と評価の一体化である。学習評価により児童生徒の学習成果を的確に捉え評価するのは当然のこと、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうことができるよう、学習評価の方法を工夫・改善していくことが必要となる。

これらの状況を踏まえ、上川教育研修センターでは、第17次研究において明らかにしてきた「深い学びを実現する学習指導の在り方～各教科における主体的・対話的な学びを通して～」についての成果を踏まえ、指導と評価の一体化を図る評価方法の工夫と改善を通して、児童生徒一人一人が主体的・対話的で深い学びを実現することを目指し、次のように研究を進めることとした。

(2) 研究主題のおさえ

① 研究主題～「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」

「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り、自分で自分の学びをコントロールできる状況であること。

「対話的な学び」とは、児童生徒同士の協議、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めることができる状況であること。

「深い学び」とは、児童生徒一人一人が、各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成し表したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう状況を示している。

「学習指導の在り方」を目指すことは、学習の内容と方法の両方を重視し、目標・指導・評価の一体化を図りながら、児童生徒の学びの過程を質的に高めていくことであり、幅広い授業改善の工夫が期待できる。

そして、こうした児童生徒の学びの基盤となるものは、学年・学級の支持的風土をはじめ、教室環境の整備や学習規律の確立など、組織的に学びの環境を整える日々の営みである。

② 副主題～求められる資質と能力を育む指導と評価

主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を一層充実させ、育成を目指す資質・能力を児童生徒に身に付けさせるためには、指導と評価の一体化が重要である。指導と評価の一体化を図るためには、児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習の指導や改善に生かしていくというサイクルを確立することが大切である。つまり、主体的・対話的で深い学びを評価という側面から切り込んでいくのである。指導と評価の一体化としての要素が加わることは、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善が一層充実したものになることが期待できる。

2 求める児童生徒像

各教科等において生きて働く「知識及び技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」を高めながら、「学びに向かう力、人間性等」を身に付けた児童生徒

3 研究の仮説

目標と手立てが合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を設定するとともに、主体的・対話的で深い学びとなる指導計画や観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選、更には評価方法の工夫をすることにより、教師の指導改善、児童生徒の学習改善へつなぐことができるであろう。

4 研究内容

指導と評価の一体化	
(1) 単元目標の明確化	
・指導事項	・実態と他単元との関係
(2) 単元評価規準の設定	
・内容のまとまりごとの評価規準との関係	
(3) 指導計画・評価計画	
・単元構成の工夫 ・学習課題の工夫 ・見通しと振り返り ・対話の目的と手立て	・一単位時間における評価規準（何を） ・評価時期（どこで） ・評価材料、指導に生かす評価と記録に残す評価（何で） ・学習支援の手立て（手立ては）
(4) 観点ごとの総括	
・見取り方と判断	・次時への評価の生かし方

5 研究の進め方

- ◇ 教科を主体として研究を進める。
- ◇ 文献や実践資料に基づく理論研究を週1回の定例研究室会議及び夏季、冬季の集中研究室会議において進める。
- ◇ 各年次とも、上川教育研修センターの研究員及び、研究協力校の授業実践を基にして理論を検証し、研究紀要にまとめる。
- ◇ 研究の成果については、「センター研究発表会」において発表し、授業研究、研究協議で明らかにされた成果と課題を基に、研究紀要にまとめる。

6 研究計画の概要

令和2年度から令和3年度にわたる2か年において、単元の指導計画の作成及び本時の授業展開の工夫、学習評価の作成と見取り方を研究内容の柱として研究を推進する。

2年次 令和3年度 授業実践（研究員2名、研究協力校2校）

○研究員の授業実践

旭川市立東明中学校 外国語科（第1学年「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」）
研究員 久保田竜平

美瑛町立美瑛東小学校 国語科（第1学年「スイミー」「『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう」）
研究員 石塚 大輔

○協力校の授業実践

旭川市立永山南中学校 数学科（第1学年「比例と反比例」）
教諭 加納 宏康・青木 俊也
旭川市立陵雲小学校 国語科（第6学年「目的や条件に応じて、計画的に話し合おう」）
教諭 東海林敦子・森下ほのか

7 研究の全体構造

研究 主題

主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方

～求められる資質と能力を育む指導と評価～

求める児童生徒像

各教科等において生きて働く「知識及び技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」を高めながら、「学びに向かう力、人間性等」を身に付けた児童生徒

研究の仮説

目標と手立てが合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を設定するとともに、主体的・対話的で深い学びとなる指導計画や観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選、更には評価方法の工夫をすることにより、教師の指導改善、児童生徒の学習改善へつなぐことができるであろう。

研究 内 容

指導と評価の一体化

(1) 単元目標の明確化

- ・指導事項
- ・実態と他単元との関係

(2) 単元評価規準の設定

- ・内容のまとめごとの評価規準との関係

(3) 指導計画・評価計画

- | | |
|------------|----------------------------|
| ・単元構成の工夫 | ・一単位時間における評価規準（何を） |
| ・学習課題の工夫 | ・評価時期（どこで） |
| ・見通しと振り返り | ・評価材料、指導に生かす評価と記録に残す評価（何で） |
| ・対話の目的と手立て | ・学習支援の手立て（手立ては） |

(4) 観点ごとの総括

- ・見取り方と判断
- ・次時への評価の生かし方

学びの基盤

支持的風土の醸成

教室環境の整備

学習規律の確立

第Ⅱ章 研究の内容

1 第18次研究のねらい

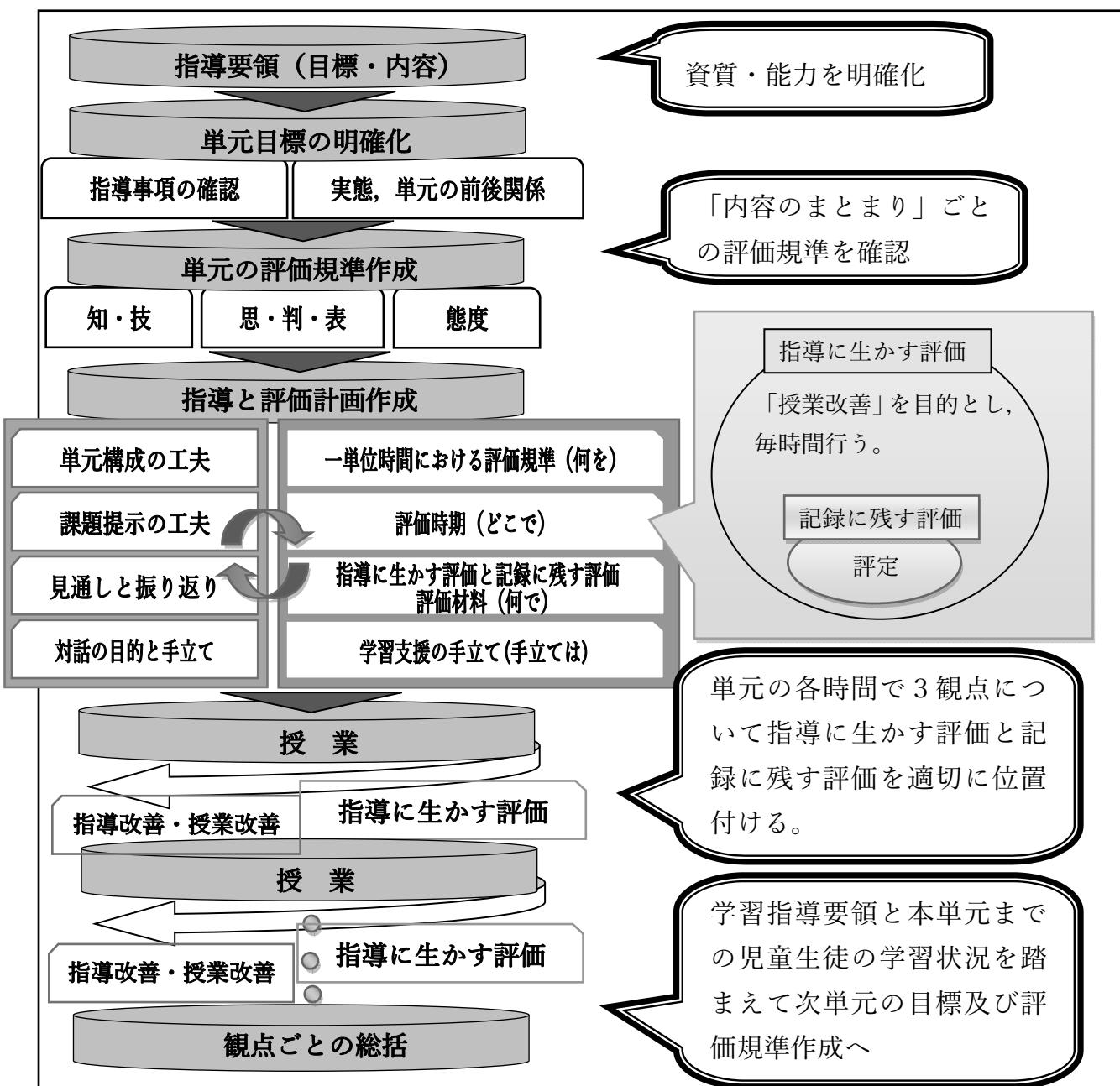
2 研究の具体

1 第18次研究のねらい

本研究は、児童生徒一人一人が、各教科等において生きて働く「知識及び技能」を習得し、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」を高めながら、「学びに向かう力、人間性等」を身に付けることを目指している。そのため、当センターでは、「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」を研究主題に掲げ、第18次研究では、単元や題材などを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、授業の改善と評価の改善を両輪として研究内容を次の2つに分け研究を進める。

- (1) 目標・課題・まとめ・評価が合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を見取る評価計画を作成すること。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを充実させるための「単元構成の4つの視点」(後述)を意識しながら、主体的な学びや対話的な学びを単元で意図的に位置付け、指導計画を作成すること。

◆内容のまとめごとの指導と評価の一体化のモデル◆



2 研究の具体

研究内容

指導と評価の一体化

新しい学習指導要領においては、児童生徒が「何を学ぶか」という指導内容を見直すとともに、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」までを見据えた授業改善を進めることが求められている。

そのためには、目標と手立てが合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を見取る評価計画を作成することが大切である。指導計画では、主体的・対話的で深い学びを視点とした単元構成の工夫、評価計画では、評価する時期や場面の精選、評価方法の工夫を研究内容とすることとした。

(1) 指導計画

単元構成の工夫とは、主体的・対話的で深い学びを充実させるための「単元構成の4つの視点」を意識しながら、主体的な学びや対話的な学びを単元で意図的に位置付け、指導計画を作成することである。

単元構成の工夫

深い学びを実現させるためには、児童生徒が自ら思考して問い合わせ続ける学習過程を目指し、単元や題材などを見通しながら単元を構成する必要がある。

児童生徒が、次の4つの姿（知識を相互に関連付けて①より深く理解する姿、②情報を精査して考えを形成する姿、③問題を見出して解決策を考える姿、④思いや考えを基に創造する姿）を実現する学習を通して、深い学びを充実させることが大切である。

そこで、以下の4点を意識した単元構成を行う。

なお、一単元のみで下記の4点が全て網羅されるものではない。

【単元構成の4つの視点】

- 既習内容や経験と関連付けた思考の促進を意識した単元構成
より深く理解する姿を目指し、児童生徒が既習の内容や経験などを関連付けて考えられる場面を設定する。
- 児童生徒が思考して問い合わせ続ける過程の重視を意識した単元構成
情報を精査して考えを形成する姿を目指し、児童生徒の意識に沿って、思考が連続するよう意図的に計画する。
- 個の問い合わせの顕在化、切実な課題の設定を意識した単元構成
問題を見出して解決策を考える姿を目指し、児童生徒の意識に沿った個の課題意識を高める場面を設定する。
- 資質・能力が活用・発揮される場面の設定を意識した単元構成
思いや考えを基に創造する姿を目指し、単元を通して身に付けた力を活用する場面を設定する。

主体的・対話的な学びは、毎時間の授業改善の視点として有効である。そこで、深い学びをより充実させるためには、児童生徒の思考の流れや単位時間のつながりを考慮しながら、主体的な学びや対話的な学びが中心となる時間や場面を意図的に単元に位置付けることが大切である。

学習課題の工夫とは、児童生徒が見通しをもって課題を解決することができるようになるとある。

見通しとは、児童生徒が問題意識から課題を設定し、課題解決に向けた方法や手順を見定めることである。

学習課題の工夫

児童生徒一人一人が、目標を理解し、学習への興味・関心を高め、主体的に課題解決に取り組むようにするために、単に目標を示すのではなく、児童生徒が単元の学習で何を学ぶのか、どのような解決方法があるのかなどを見通すことができるようとする必要がある。

学習課題の設定に当たっては、課題意識を高める問題を提示した上で、次の点に配慮することが大切である。

- 学習の目標や内容を理解できる学習課題
- 学習への興味・関心や問題意識を高める学習課題
- 主体的に学ぶ意欲を高める学習課題
- 学習の見通しをもつことができる学習課題

見通し

本研究では、上記のような学習課題を発達の段階に応じて提示することにより、児童生徒の主体的な学びを促すことができるようとした。

また、児童生徒が見通しをもって課題を解決するためには、課題解決の方法や手順の確認が必要であることから、既習事項や生活経験を想起させたり、学習過程を確認させたりする学習活動を取り入れた。

このように、個人思考に入るまでに学習課題を理解させ、課題解決の方法や手順を確認する中で見通しをもたせることにより、児童生徒の主体的な学びが可能となる。

振り返りとは、児童生徒が学んだことについて自分自身の言葉で自己評価することである。

振り返り

児童生徒が一単位時間の終末において、何をどのように学んで、何ができるようになったのかを実感して次時への学習意欲を高めるためには、振り返りの時間を設定し、「学びの成果」や「解決の過程」を主体的に振り返らせることが必要である。

「学びの成果」の振り返りでは、その時間に学習したことで、何が分かり、何ができるようになったのか等の自らの学習状況を自己評価させる。

「解決の過程」の振り返りでは、問題解決的な学習過程とその方法や手

段を通して学びの成果を得るに至った自分自身の学習の足跡を自己評価させる。

振り返りの過程は、次のようなものが考えられる。

【学習の終末で行う学習過程】

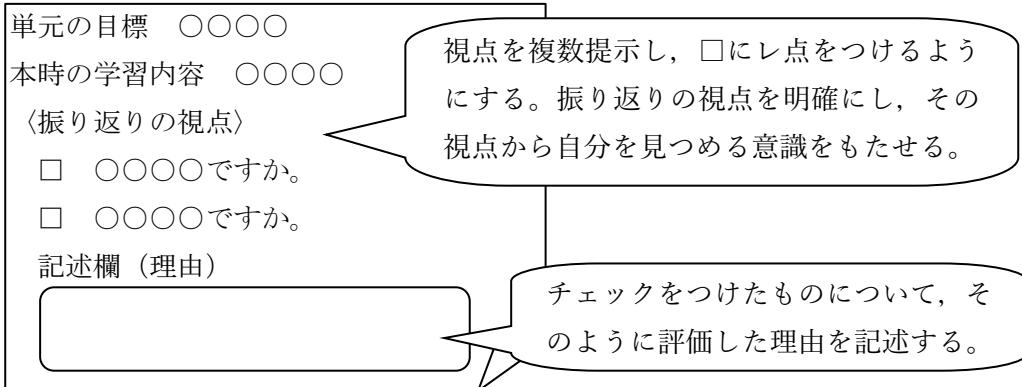
- ① 学習課題に対するまとめを行う。
- ② 練習問題に取り組む。
- ③ 個人思考の段階における自分の考えを見直し更新する。
- ④ 学びの成果を振り返る。
 - ・本時の学習の理解度を「4件法」等で表す。
 - ・本時の学習で分かったことを書く。
 - ・本時の学習で分からなかつたことを書く。
 - ・本時の学習から新たな疑問を書く。
- ⑤ 解決の過程を振り返る。
 - ・本時の学習の解決の過程を振り返る。

本研究では、④「学びの成果を振り返る」と⑤「解決の過程を振り返る」の内容について短時間で自己評価する。なお、⑤については、学習内容や児童生徒の発達の段階に応じて適宜行うものとする。

このように、一単位時間の終末の場面（教科の特性や単元の内容によってはその限りではない）で「学びの成果」や「解決の過程」を振り返らせることにより、主体的な学びが次時につながるものとなり、個の学びを豊かなものにすることができる。また、振り返りが困難な児童生徒に対しては、以下のような個別の指導が考えられる。

- ・授業中や授業後に対話をしながら、できていることを伝えたり、質問したりして、具体的な振り返りの視点をもたせる。
- ・書き方が分からぬ児童生徒に対しては、何ができた（できなかった）のか、その理由は何だと思うかなど、振り返りで書く文章の構成について助言したり、他者の内容を紹介したりする。

振り返りの書き方（例）



このように、一単位時間の終末の場面（教科の特性や単元の内容によってはその限りではない）で単元の目標を見通した「学びの成果」や「解決の過程」を振り返らせることにより、主体的な学びが次時につながるもの

となり、学習を調整し、粘り強く取り組むことができる。

【単元、内容のまとめを通して振り返りの過程】

①学習の開始時点（学習を価値付け、見通しをもつ姿）

- ・単元や内容のまとめにおける目標の設定
- ・目標を達成することの意味やよさなどの価値付け
- ・目標達成までの見通し

②学習の途中段階（自らの学習状況を把握し、修正する姿）

- ・目標達成に向けて、自らの学習状況を理解する
- ・目標達成に向けて、何が必要かを理解する
- ・学習の進め方を修正する

③学習の終了時（何ができるようになったのかを実感し、学習意欲を高める姿）

- ・目標が達成できたかを判断する
- ・目標達成までの過程とその成果を実感する
- ・他の学習や生活に学習の成果を生かそうと考える

単元の学習を通して、児童生徒が「何ができるようになったのか」という学習の成果を的確に捉え、次の学習に向かうことができるようにするために、①～③の場面で振り返りの時間を設定する。これにより、児童生徒の学習を調整する機会を保障するとともに、教師は、主体的に学習に取り組む態度の「自己調整」や「粘り強さ」を見取ることができるようになる。

◆「単元を通して振り返りの計画」の視点での実践例1（p.14）

協力校の授業実践 永山南中学校第1学年 数学科「比例と反比例」 p. 43～57

対話の目的と手立てとは、物事の多面的で深い理解のために、対話を充実させる指導の方法である。

対話の目的

教師が対話の方向性を設定した後に考えることは、児童生徒に対話の論点を設定することである。

そのためにも、まず、児童生徒が「話したい」「相手からの情報を聞いて考えを広げたい」と思えるような論点が必要となる。そこで教師は、児童生徒の実態を把握し、必然性のある対話のテーマを考えることが大切である。

例えば、算数科の「資料の調べ方」の学習において、平均値や最大値といった様々な考え方が出される問題を設定し、多様な考え方に対する機会を設定する。「考え方を吟味・検討する」という対話の方向性のもと、「どの代表値を用いて考えることが妥当なのか」を論点とすることが考えられる。

また、図画工作科の絵や立体、工作に表す活動において、制作途中で自分以外の作品についても対話する場面を設定する。そのことで、「改善点

手立て

を見出すため」という対話の方向性のもと、「自分の作品主題に迫るために足りなかったこと」「更に作品をよく仕上げるためにできること」を論点とすることが考えられる。

このように、単元のねらいや本時の目標に沿った論点を示すことで、自分の考えを広げたり、深めたりし、目標に迫ることができる。

一単位時間という時間的制約の中で、対話を充実させるためには、児童生徒が既存の知識等との比較や情報の関連付けを行う力を高めることが必要である。

そのためには、教師が児童生徒の必要感に応じて対話の場を設定したり、それぞれの考えを可視化したりすることが大切である。

教師は、本時のねらいや児童生徒に身に付けさせたい力に応じて、対話を柔軟に学習過程に組み入れる。

例えば、自分の考えを構築するために、個人思考の途中で対話を取り入れることが考えられる。本時の課題に対し、自分の考えがどこまで構築されているかという状況に応じて、必要な情報を収集させたり、得られた情報を基に自分の考えを再構築させたりするなど、既存の知識等との比較を行う場を意図的に設定する。

さらに、集団思考後のまとめを考える場面や学習活動全体を振り返る場面で考えを統合するための対話を取り入れ、情報の関連付けを行わせることが考えられる。

なお、常に対話的活動を個人思考や集団思考の場面に限定するのではなく、その目的に応じて取捨選択を含めて柔軟に対応する。

また、自分の考えを表現したり、互いの考え方を比較・検討したりするために、教師は、児童生徒の思考過程を可視化するなど、多様な手段で児童生徒の考えを表現させる。

例えば、思考ツールを活用して児童生徒の思考過程を可視化したり、考えたことを付箋に書き出して構造的に整理させたりすることなどが考えられる。

このように、「場や形態の設定」や「互いの考え方の可視化」を行うことによって、対話を充実させることができる。

本研究における対話は、単元のねらいや本時の目標を達成するために行うものである。児童生徒が互いの思いや考え方を納得するまで伝え合い、分かり合おうとする過程を通して、自分の考えに自信をもつたり、新たに考えが変わったり、加わったりするなどし、対話前と比べて、自分の考えが深まったり広がったりしたことを実感させたい。そのことが、単元のねらいや本時の目標の達成へつながると考える。

(2) 評価計画

単元目標の明確化とは、指導事項を確認し、児童生徒の実態を把握し、単元の前後関係を考えることで、単元の目標をはっきりとさせることである。

指導事項の確認
児童生徒の実態
他単元との関係

単元（題材）の目標を設定する時には、その単元の中で児童生徒に身に付けさせる資質・能力を明確にさせることが大切である。

その際、まずは学習指導要領から押さえるべき指導事項を整理することが重要である。次に、その指導事項に対する児童生徒の実態を確認する。更には、本単元（題材）における事前・事後の単元（題材）とのつながりも押さえておくことが求められる。

このように、指導事項、児童生徒の実態、実施単元の事前・事後を教師が把握して目標を設定することで、その目標は児童生徒にとって、必要な資質・能力を反映したものに成りうると考える。そのように設定した目標は、その単元におけるゴールであり、そこに児童生徒が到達できるように学習を計画していく。そこから、「この時点では、これぐらいの力を身に付けておくことが求められる」と逆算的に考えていく。このように、目標の達成に向けて通過しておかなければならないチェックポイントを設定していくことが、一単位時間における評価計画を立てていくことにつながっていくと考える。

単元の評価規準の設定、評価計画の作成とは、単元構成の4つの視点から構成された指導計画を基に、何を（一単位時間の評価）どこで（評価時期）どのように（評価材料）評価し、規準に達しない児童生徒への手立てをどうするか考えることである。

一単位時間における評価規準

児童生徒一人一人に学習の確実な定着を図るために、学習指導要領に示された目標に準拠した評価を焦点化して実施することが必要である。そのため、一単位時間の評価の観点を精選し、「何を」「どこで」「何で」「手立ては」を明確にして評価を行うことで、児童生徒の学習改善に生かすことが重要である。

また、学習評価は、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが大切である。

そこで、単元の評価計画においては、それぞれの時間の目標や内容に応じて、観点別評価（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）をバランスよく位置付けることが大切である。

指導に生かす評価
記録に残す評価

さらに、評価を焦点化するためのもう一つの手立てとして、本研究では、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」のどちらを目的とするのかを

明らかにすることとした。「指導に生かす評価」は、観察や発言、ワークシート等への記述内容などを基に、個に応じた指導や授業改善に生かすことを目的として毎時間行うものである。例えば、単元の前半では努力を要する状況の児童生徒を中心に見取り、単元や本時の目標を達成するために必要な手立てや支援を行うことも考えられる。目標の実現のために児童生徒の学習状況を机間指導等で適切に見取って支援し、つまずきの確かな解消を図る。全児童生徒を対象にしてはいないが、必要に応じて総括的資料に活用することもある。一方「記録に残す評価」は、ノートや作品、レポートやパフォーマンス課題など全ての児童生徒の学習の成果、状況が判断できるものを参考にしながら、主として総括的評価の資料とすることを目的として行うものである。

そのため教科ごとに、時間や学習活動のまとめを考え、まとめの最後の時間に記録に残す評価を行うなど、指導した内容の達成状況が適切に見取れる段階で評価する。なお、記録に残す評価においても、評価後は個に応じた指導や授業改善に生かしていく。

2つの視点から評価を捉えることで、評価の観点や評価の回数を精選し、効果的・効率的な評価となることを目指した。なお、評価の方法については、ノートやワークシート、作品、レポートやパフォーマンス課題など、授業後に教師が確認しながら評価できるものの他、発言や交流の様子など、授業中の学習状況を見取りながら評価するものなど、目的に応じた方法を選択して行うこととした。

このように、観点別評価を行うとともに、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」のどちらを目的とするのかを明確にすることにより、効果的・効率的な評価を行うことができる。

そして、評価規準に表されたものを「おおむね満足できる」状況として捉え、それを踏まえて支援を要する児童生徒への手立てを具体的に考えておくことで、学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすことができると言える。

評価時期
評価材料

手立て

◆ 「単元の評価計画の明確化」の視点での実践例2（p.15）

※協力校の授業実践 陵雲小学校第6学年 国語科「みんなで楽しく過ごすために」 p. 58～72

観点ごとの総括とは、目標を達成した児童生徒の具体的な姿を想定し、表出した学習の成果、状況を適切に見取り、評価することである。

見取り方

「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行う。また、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり、活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものである。

「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課

題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するということではない。各教科等の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要であり、以下の2点の側面において評価するものである。

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面**
- ②粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面**

そこで、評価計画の作成に当たっては、各教科の単元や題材の目標を踏まえ、内容に即して「知識・技能」または「思考・判断・表現」と一体的に評価することが必要である。その際、児童生徒が自らの学習状況を振り返ったり、自らの考えを記述したり、他者との協働を通して自らの考えを深めたりする場面を単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で設定して見取れるようにしておくことが大切である。

指導に当たっては、その時間の具体的な評価規準（何を）を、どの場面（どこで）で、どのような方法（何で）で評価し、努力を要する生徒への支援の方法（手立ては）はどのように行うのかを明確にしていく。

評価を行う際には、教科の特性、本時のねらい、学習内容等に応じて、妥当性と信頼性を高めるよう留意する必要がある。

そのため、本研究では、学習活動における具体的な評価規準から目標に達成したと判断する具体的な姿を想定し、評価の妥当性を高め、適切な評価を行えるようにした。

これらを踏まえた上で、評価の場面と方法を学習指導案に位置付けることが、教科の特性、学習内容等に応じて目標を確実に達成させることに結び付く。

判断

◆ 「1 単位時間の評価」の視点での実践例 3 (p.16)

研究員の授業実践 旭川市立東明中学校 外国語科 第1学年

「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」 p. 19~32

◆ 「振り返りシートの活用」の視点での実践例 4 (p.17, 18)

研究員の授業実践 旭川市立東明中学校 外国語科 第1学年

「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」 p. 19~32

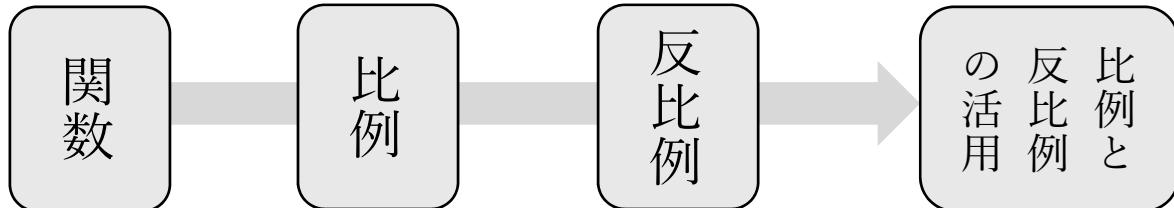
◆「単元を通した振り返りの計画」の視点での実践例1

協力校の授業実践 永山南中学校第1学年 数学科「比例と反比例」 p. 43~57

研究内容3 「指導計画・評価計画」について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価時期と評価材料
 - ・段階的に学習できる「指導計画」・「指導に生かす評価」「記録に残す評価」の適切な位置付け

教科書の構成



単元の始まりには、単元のゴールまでの見通しを持たせるために、レポート課題①（予想）を位置付けた。

比例と反比例それぞれの小単元の終わりに小テストとレポート課題①・②を配置し、単元の学習後には単元テストとレポート課題③（最終課題）を配置した。それにより、生徒に自己調整の機会を用意した。

【段階的に学習できる「指導計画】
生徒の学習が比例から反比例
へと段階的に進むように指導
計画を立案した。

段階的に学習できる「指導計画」



〔「主体的に学習に取り組む態度」の評価時期と評価材料〕（※太字・斜体が「記録に残す評価」）

知能			小テスト		小テスト	単元テスト
思表判	レポート①(指導)		レポート①		レポート②	レポート③
主体	レポート①(指導)				小テスト	レポート③

見通し

自己調整

自己調整

振り返り

【「指導に生かす評価」「記録に残す評価」の適切な位置付け】

小単元（比例・反比例）や単元の終わりに実施する「小テスト・単元テスト、レポート課題①～③」を「記録に残す評価」として設定し、目的に応じた無理のない評価ができるように評価計画を作成した。また、「指導に生かす評価」は、個に応じた指導や授業改善に生かすためのものとしておさえ、基本的に全時間で行うものとした。

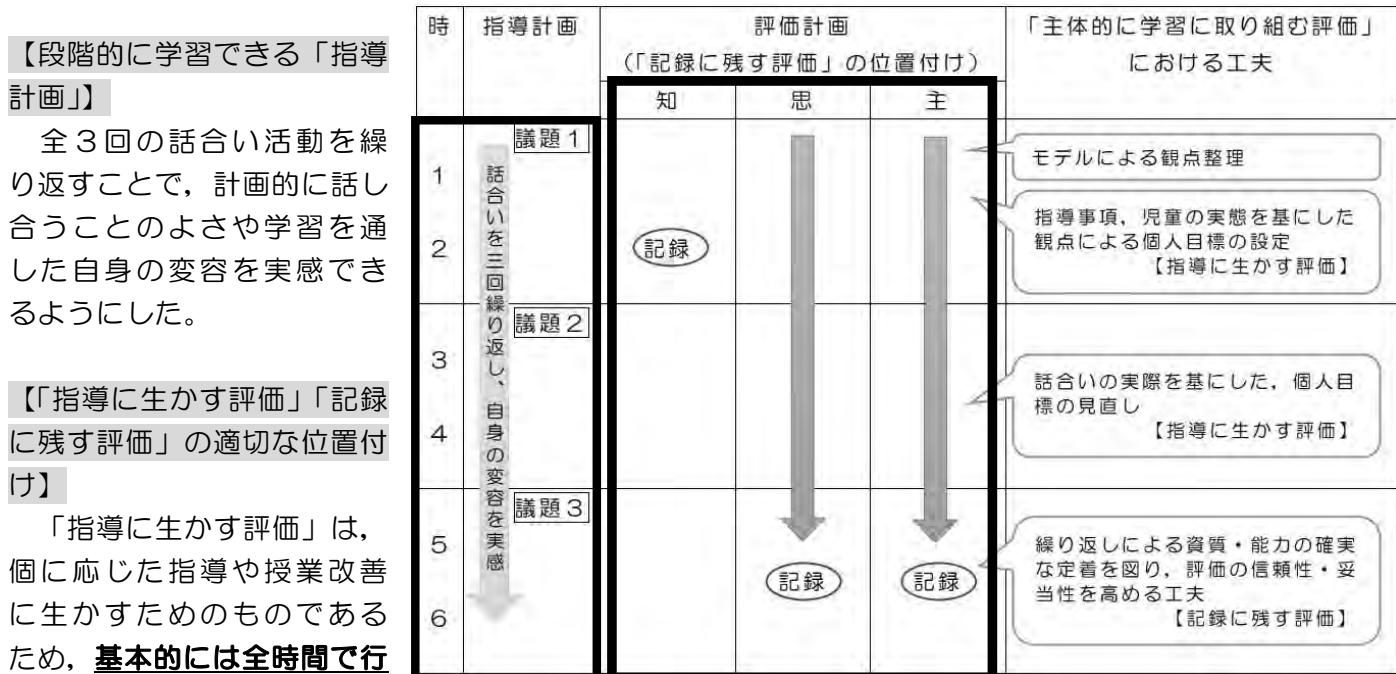
振り返りシートでは、「自らの学習を調整しようとする側面」の見取りに関わって、生徒に単元のゴールまでの見通しをもたせたり、学習状況を把握させたりするための工夫や、日常生活との関連づけを図るための工夫をした。

◆「単元の評価計画の明確化」の視点での実践例2

※協力校の授業実践 陵雲小学校第6学年 国語科「みんなで楽しく過ごすために」 p. 58~72

研究内容3 「指導計画・評価計画」について

- ・段階的に学習できる「指導計画」
- ・「指導に生かす評価」「記録に残す評価」の適切な位置付け
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価時期と評価材料



【指導に生かす評価】「記録に残す評価」の適切な位置付け

「指導に生かす評価」は、個に応じた指導や授業改善に生かすためのものであるため、基本的に全時間で行うものとした。単元の終わりに実施する「3回目の話し合い活動」を「記録に残す評価」として設定し、目的に応じた無理のない評価ができるように評価計画を作成した。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価時期と評価材料】

単元の始まりには、よい話しの映像を見せ、観点を整理する。その後すぐに1回目の話しを行い、個々の課題意識を高めた上で、個人目標を設定できるようにした。さらに、2回目の話し合いを経て、個人目標を更新できるようにした（自ら学習を調整する側面）。また、議題を「最高学年として1年生に喜んでもらう活動」や、「中学校進学に向けて自分たちに必要なこと」とすることで、話し合ったことを今後の生活に生かしていくことができる話題とした（粘り強い取り組みを行おうとする側面）。

児童の振り返りシートの記述や、実際の話しの様子を評価材料とし、自己調整と粘り強さの両面から主体的に学習に取り組む態度の評価を行った。

振り返りシート	
単元のゴール 目標で何が達成されたか	
6年2組 番	
議題	
	個人目標
自己評価・理由	個人目標達成度【5・4・3・2・1】 前回と比較して、 3回の話しを通して、
	個人目標達成度【5・4・3・2・1】 3回の話しを通して、
態度	あいのコントクト うなづき えがお みぶりでぶり♥ 全員が発言できるよう話している。 質問で考えを広げている。 具体的な内容まで話し合うことができている。 目的からそれなりのように話している。 共通点や相違点を挙げてまとめている。 (他の班から学んだこと)
	あいのコントクト うなづき えがお みぶりでぶり♥ 全員が発言できるよう話している。 質問で考えを広げている。 具体的な内容まで話し合うことができている。 目的からそれなりのように話している。 共通点や相違点を挙げてまとめている。 (他の班から学んだこと)
班の話し評価	

◆「1 単位時間の評価」の視点での実践例 3

研究員の授業実践 旭川市立東明中学校 外国語科 第1学年

「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」 p. 19~32



6 集団思考

「きて、何がうまくいかなかつたか、課題を修正させる。全体で共有させる」

- ・ミニパフォーマンステスト（後半）
・た質問を用いてもう一度同じグループの友達と即興でやり取りさせる。（40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り）
- ・別のグループの友達と即興でやり取りさせる。（40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り）

主体的に学習に取り組む態度

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取った。

師や
内容

- ・上手に対話をしている生徒の demonstration を見せる。（言語面と内容面での支援）

●指導に生かす評価【思】【主】

全体を見ながら、1つのグループを中心に生徒の変容を見取る。

「見取り方」
何を、どこで、
何で見取るの
かを明確にし
た。

【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】

- ＜何を＞ 以下の3つの条件を満たして即興でやり取りしようとしているか。
- ①【質問できる】Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文で質問している。
 - ②【応答できる】相手の質問に対し、その場で適切に応答している。
 - ③【継続・発展】関連する質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら対話を継続している。
- ＜どこで＞ ミニパフォーマンステスト
- ＜何で＞ 行動観察、振り返りシート
- ＜手立ては＞・言語面でのつまずきには、教科書やノートを振り返らせる。
・内容面でのつまずきには、目的をしっかりと理解させたり、振り返りの時間を設け修正させたりすることで自ら考えさせる。

8 振り返り

- ・「振り返りシート」に記入させる。その際、何ができるようになったのか、そう判断した根拠は何か、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標の達成状況などを書かせる。

主体的に学習に取り組む態度

「お互いのことをよりよく知るために、色々な質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら、会話を続けることができた。（粘り強さの例）」

「ミニパフォーマンステストでは相手の質問に答えることはできたけど、自分の情報を即興で伝えることができず、話題を深めることができなかったので、次回は自分のことも伝えながら、やり取りできるようになりたい。（自己調整の例）」

「振り返りシートの活用」

ミニパフォーマンステストの姿と振り返りシートから見えるそこに至るまでの過程を加味し、指導に生かす評価を行った。

3課終末に2日間日程でミニパフォーマンステストを行い、本時はプレテストとし、2日目に生徒全員の「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取った。具体的な見取り方として、「何を、どこで、何で、手立ては」を明確にし、具体的な姿を想定し、指導に生かす評価を行った。また、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るために、生徒には、本時の終わりに振り返りシートに「何ができる、何ができなかつたのか。そう判断した根拠は何か。どんな工夫をしたのか。」などを記入させた。2日目のミニパフォーマンステストの前には、これらの課題を修正させる時間を設けた。振り返りシートへの記入や自己調整の場を意図的に設けたことで、生徒の変容や調整力を見取ることができた。

◆「振り返りシートの活用」の視点での実践例4

研究員の授業実践 旭川市立東明中学校 外国語科 第1学年

「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」) p. 19~32

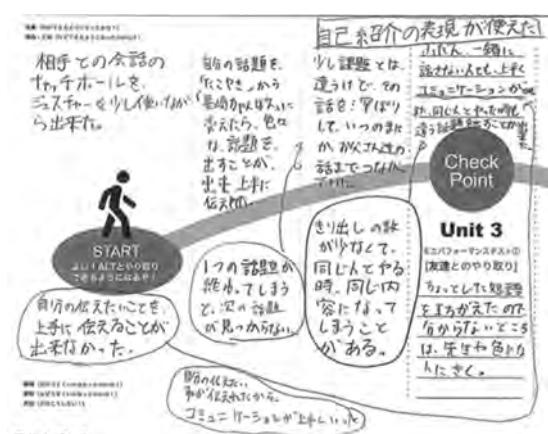
振り返りシートは、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る際の資料や児童生徒の学習状況を把握する際に活用できる。また、授業改善にも役立てることができる。



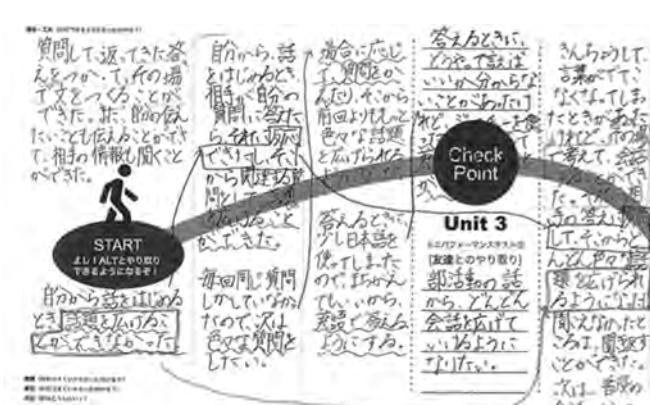
生徒自身が前時の課題を把握し、課題意識をもちながら授業で調整・修正していく。(調整の様子がわかる)



1課・2課での学びを活用し、自らの課題を解決した。(調整の様子がわかる)



自己調整の場を設定する。
(例: 教師や友達に聞きに行く)



3課全体を見ながら、今の自分を把握している。(学習状況がわかる)

「生徒と教師が課題を共有できる」

振り返りシートから、生徒の課題や変容が見え、手立てを講じやすくなった。また、生徒が何を解決したいかがシートから把握できるため、行動観察の際に生徒の試行錯誤する姿、学習を調整しようとしている姿、変容などをピンポイントで見取ることができた。

「振り返りで出た課題を次時で修正させる」

意図的に自己調整の場を設け、前時の課題を授業の中で修正させた。「振り返り→自己調整の場→変容・新たな課題」を繰り返す

自分の目標	
自己目標	会話ができるようになりたい。(目標達成)
目標達成のための工夫	- 分からない言葉があると、聞き取れない。- 音楽でやわらかい音子と比べて、感覚と対応する。

第Ⅱ章

研究員の実践授業の振り返りシート

【旭川市立東明中学校 外国語科 第1学年】

【美瑛町立美瑛東小学校 国語科 第1学年】

ここに 「スイミー」
「おはなしどうぶつえん」をつくって、本を しょうかいしよう

名まえ

スイミーの ようすや こうどうを
そうぞうする。

そのためにには…

こうちょうせんせいを ばん気にする
ために、「ゆうきがわく 本」を
しょうかい しよう。

みにつける ちから:

じぶんの 応援:

	1・2・3じかん筋 【みどり】	4・5・6・7・8じかん筋 【ひう気の わく ポイント】	9・10じかん筋 【こきょうせんせいに しょうかい】
がく しゅう	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシート ・みにつけるから ・じぶんのめあて ・しょうかいしたい 本を えらぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものがたりの で自ごと ・どうじょうじかん筋の こうどう ・ゆう気が わく ポイントは どこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・しょうかいの れんしゅう ・こうちょうせんせいに しょうかい ・ともだちの えらんだ 本の よみあい
みにつける から	<ul style="list-style-type: none"> ・みとおしを らむ ・いろいろな 本が あることを しる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものがたりの 大筋筋 つかむ ・どうじょううるふつの ようまや こうどうを そろそろする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ざくしょに したしむ ・みのけえを する
ふり かえり	スイミー		<p>これまでに みにつけた ちからを はっしゃして とりくもう。 ゴール!</p>
ひきこ みつき るよこ			
おきよ ・ばんやりとい	スタート!		
しょうかい レベル			

「おはなしどうぶつえん」をつくって、本を しょうかいしよう

こんなのがくしゅうを おきてー^ー
「できるようになっここと」「ちっとやってみたいこと」は?

「みにつける からは?」
「じぶんの めあては?」

第Ⅲ章 研究員の授業実践

○旭川市立東明中学校 第1学年 外国語科
授業者 久保田 竜平 研究員

○美瑛町立美瑛東小学校 第1学年 国語科
授業者 石塚 大輔 研究員

研究員の授業実践 中学校第1学年 外国語科

**知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すために、
資質・能力が活用・発揮される場面の設定を図る学習**

日 時 令和3年6月29日(火) 5校時 実施

生 徒 旭川市立東明中学校1年5組 32名

指導者 久保田 竜平

- 1 単元名** Unit 3 Club Activities
 Unit 4 Friends in New Zealand (東京書籍 1年)

2 単元について**(1) 教材観**

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容（抜粋）は、次のとおりである。

【学習指導要領】～外国語科の目標と内容～**1 目標**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(3) 話すこと [やりとり]

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようとする。

2 内容**エ 話すこと [やりとり]**

- (ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。
- (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えしたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり、自ら質問し返したりする活動。

3課・4課は、生徒が関心のある話題についてwhenやwhereなど様々な疑問詞を用いて相手や自分の情報をやり取りさせる単元である。

1課、2課では、自分が普段よくすることやできることを伝えたり、身近な人やものについて紹介したりするなど、自分について発信する内容であった。本単元では、疑問詞等を用いて相手に質問したり、答えたりすることができることを目指す。

その際、小学校で学んだ既習事項や0課、1課、2課の表現も活用させながら、友達やALTと即興で伝え合う力を身に付けさせたい。

第Ⅲ章

(2) 生徒観

4月に実施した生徒の学習アンケートによると、多くの生徒が「英語を話せるようになりたい」や「ALT や外国人と英語で対話できるようになりたい」など、英語を話す分野に興味・関心をもっていることがわかった。言語活動においても、積極的にコミュニケーションを図る姿勢が多く見られ、学習意欲が高い。その反面、話す活動を行う際、言語教材の特徴やきまりを理解していないことや学習内容の定着が不十分であるなど、正確な英語使用において課題が見られる。また、見方・考え方を働きながら伝え合う内容を適切に表現する点に関しても指導が必要であると感じる。やり取りを行わせるにあたって、目的や場面、状況などに応じて、「何を話し、聞くとよいか」と「それを英語でどのように表現するか」を生徒に思考・判断させることが重要であると考える。

(3) 指導観

本単元は、様々な疑問詞を使った文を用いて ALT や友達の情報などを聞き取ったり、自分の情報や考えなどを伝え合ったりする言語活動を通して、即興でやり取りする能力を育っていく。そのため、毎時間の帯活動や教師とのやり取りの中でスマートトークを積み重ね、生徒の課題でもある英語使用の正確さと表現内容の適切さを磨く。

4課が終了した後には、「思考・判断・表現」を問うパフォーマンステストを行う。3課と4課の言語活動の中で生徒が粘り強く「知識及び技能」を習得し、自ら「思考力、判断力、表現力等」を身に付けていくことができるようになる。そのため単元の最初に目指すべき姿を共有し、生徒に自己目標を設定させ、意図的に振り返りと自己調整の場を設け、生徒が主体的に学習に取り組めるように支援していきたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

① 「教室環境の整備」について

- ・黒板横に掲示物を多く貼らず、生徒が授業に集中できる環境を整備してきた。

② 「学習規律の確立」について

- ・教師が早めに教室に入り、休み時間に学習用具の準備をさせてきた。
- ・チャイム前に着席させ、チャイムと同時に学習が開始できるよう心掛けてきた。
- ・正しい姿勢で学習に臨み、相手の目を見て話を聞くよう指導してきた。

③ 「支持的風土の醸成」について

- ・間違いや失敗をおそれず、何事も挑戦するよう指導してきた。
- ・互いを尊重することや、相手の考えに耳を傾け、相手に配慮しながら自分の考えを伝えられるように指導してきた。

3 単元の目標（3課・4課）

- (1) 疑問詞 when, where, what などの特徴やきまりを理解している。また日常的な話題について、それらの疑問詞などを用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合う技能を身に付けている。
(知識及び技能)
- (2) ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合うことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ALT とお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準（3課・4課）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞 when, where, whatなどの特徴やきまりを理解している。 ・実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題についてそれらの疑問詞などを用いて情報を即興で伝え合う技能を身に付けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常的な話題について、簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合っている。

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容（3）指導計画・評価計画

主体的に学習に取り組む態度における評価時期と評価材料

＜指導計画＞

0課、1課、2課を「話すこと[発表]」を指導する内容のまとめとして捉え、自己紹介や自分自身の情報を発信できることを目指し指導を行った。

3課は、日常的な話題について疑問詞を用いて相手や自分の情報をやり取りさせる单元である。4課でも同様に疑問詞を用いたやり取りが中心となる。そのため、3課と4課の二つの单元を通して、外国語科の内容のまとめである「話すこと[やり取り]」の領域に重きを置き、即興でやり取りする能力を育む指導計画とした。

＜評価計画＞

評価計画としては、各单元の終末にミニパフォーマンステストを行い、その様子を見取り、指導に生かしていく。最終的に二つの单元が終了した後に、ALTとやり取りのパフォーマンステストを行い、生徒の変容した姿を記録に残す。

外国語科における主体的に学習に取り組む態度については、授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができる規準となるよう、「思考・判断・表現」と一体の形となっている。そのため、3課では、7時間目と8時間目にやり取りのミニパフォーマンステスト①を行い、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り、指導に生かしていく。また、4課でも同様にやり取りのミニパフォーマンステスト②を行う。ここでのミニパフォーマンステストは、学習の調整を図らせるものであり、記録に残す評価とはしない。毎時間の言語活動や2つのミニパフォーマンステストに粘り強く取り組ませる中で、自らの学習を調整させながら、主体的に学ぼうとする態度を育み、ALTとのパフォーマンステストで記録に残す評価を行う。

＜主体的に学習に取り組む態度における評価時期＞

知
思
主

4課



後日

記
記
記

■「思考・判断・表現」と基本的に一体化して評価しつつ、言語活動への取組状況を観察しその結果を加味する。

■「学びに向う力、人間性等」は時間かけて育まれるものである。したがって、「主」を評価する時期は、单元終末や学期末等で行うパフォーマンス等が基本となる。

＜評価材料＞

□パフォーマンステスト

+

□振り返りシート

□行動観察

□ノートなど

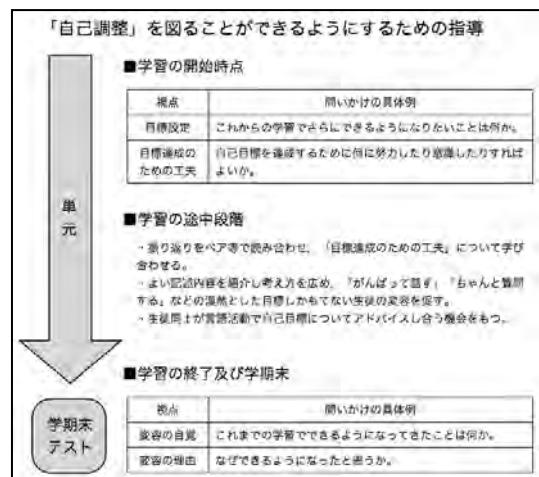
【生徒の評価例】

	3課	4課	話すこと[やり取り] ALTとのパフォーマンステストの結果
知	斜線	斜線	a
思	斜線	斜線	b
主	斜線	斜線	b

※3課、4課では、言語活動や单元の終末に行うミニパフォーマンステストに粘り強く取り組ませ、学習の調整を図らせながら、指導を継続して行い、主体的に学ぼうとする態度を育てていく。最終的にパフォーマンステストにて記録に残す評価を行う。

第Ⅲ章

主体的に学習に取り組む態度を見取る際、終末に行うパフォーマンステスト以外でも様々な工夫を行う。単元の1時間目に単元終末の言語活動をイメージさせる。その際、見通しをもたせ、自己目標を設定させる。また、振り返りシートを使って、何ができるようになったのか、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標に近付いているのか等を記入させる。その際、生徒の振り返りが実際の態度に表されているかを行動観察し、変容がない場合は個別に応じた指導を行う。単元の途中では、自らの課題を解決させるために生徒同士でアドバイスをし合う場面を意図的に設け、学習の調整が図れるように指導する。



(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文 学習課題 まとめ 目標 記録 記録に残す評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1 ・ 2	<p>Unit3-1 <input checked="" type="checkbox"/>いつ・どこなのかをたずねることができる。 主体的な学び <input checked="" type="checkbox"/>Unit3・Unit4の最終ゴールを共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常生活について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 </div> <input checked="" type="checkbox"/>Unit3とUnit4の学習計画を見ながら、自己目標を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/>課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お互いのことをよりよく知るために、家庭での生活について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 </div> <input checked="" type="checkbox"/>教科書の本文(Unit3-1)を読み聞きして、疑問詞when, whereの使い方を理解する。 <input checked="" type="checkbox"/>友達と家庭での生活について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整(集団思考)→言語活動② <input checked="" type="checkbox"/>第1・2時の学習を振り返る。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導の手立て 帯活動で身近な話題に関するやり取りの言語活動に取り組ませ、相手の話に関わらせたり質問したりさせること。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (以下同様に指導する。) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導の手立て やり取りの目的を理解させ、何を話し、聞くとよいかを考えさせること。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (以下同様に表現するかを考えさせる。) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導の手立て やり取りの目的を理解させ、何を話し、聞くとよいかを考えさせること。 またノートやワークシートを参考しながらどのように表現するかを考えさせること。 (以下同様に表現するかを考えさせる。) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 表現するかを考えさせること。 (以下同様に表現するかを考えさせる。) </div>
3 ・ 4	<p>Unit3-2 <input checked="" type="checkbox"/>したいことや夢を伝え合うことができる。 <input checked="" type="checkbox"/>課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お互いのことをよりよく知るために、将来の夢について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。 </div> <input checked="" type="checkbox"/>教科書の本文(unit3-2)を読み聞きして, want toの使い方を理解する。 <input checked="" type="checkbox"/>友達と将来の夢について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整(集団思考)→言語活動② <input checked="" type="checkbox"/>第3・4時の学習を振り返る。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート

	Unit3-3 ◎数をたずねたり答えたりできる。 ○課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お互いのことをよりよく知るために、部屋にあるものについて簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</div> ○教科書の本文 (unit3-3) を読み聞きして, how many の使い方を理解する。 ○友達と部屋にあるものについて互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整（集団思考）→言語活動② ○第5・6時の学習を振り返る。	・観察 ・ノート ・ワークシート	・観察 ・ノート ・ワークシート	・観察 ・振り返りシート
5 ・ 6	Unit3 ミニパフォーマンステスト① ◎お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えを即興で伝え合うことができる。 ○課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いて情報を即興で伝え合おう。</div> ○友達と部活動について互いの情報をやり取りする。 ・個人思考→言語活動①→学習調整（集団思考）→言語活動② ○第7・8時の学習を振り返る。	・観察 ・ワークシート	・観察 ・ワークシート	・観察 ・振り返りシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">指導の手立て 単元や自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。 自己調整の場を設け、自己の課題を修正させる。</div>

4課 単元の指導計画と評価計画

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	単元（3課・4課）の目標を再確認する。			
2	Unit4-① 相手に指示したり助言したりしよう			
3	Unit4-② 時刻をたずねたり答えたりしよう			
4				
5	Unit4-③ 何が好きかたずねたり答えたりしよう			
6				
7	Unit4 ミニパフォーマンステスト② ◎ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、 好きなものについて、簡単な語句や文を用いて情報を即興で 伝え合っている。			
8				
後日	Unit3・Unit4 パフォーマンステスト ◎ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常生活について、 簡単な語句や文を用いて情報を即興で伝え合っている。	記録	記録	記録

第Ⅲ章

6 本時の学習（8時間扱い 7／8）

(1) 目 標

ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について、疑問詞 when, where, how manyなどの簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合うことができる。【思考力、判断力、表現力等（指導に生かす評価）】

ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について、疑問詞 when, where, how manyなどの簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等（指導に生かす評価）】

(2) 本時における18次研究との関わり

研究内容（4）観点ごとの総括

本時における主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方

本時では、やり取りのミニパフォーマンステストを通して、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取る。ミニパフォーマンステストを行う前に個人で質問事項や伝えたい情報を考えてさせる。その後、グループにてペアを交代ながら実際にやり取りさせる。その様子を見取り、指導していく。その際、努力を要する生徒を把握する。グループ内でのやり取りが一通り終了したら、「何ができる、何がうまくいかなかったのか」を振り返らせ、各自の課題を確認させ、修正させる。生徒同士がアドバイスをし合ったり、努力を要する生徒へは個人指導を行ったりすることで自らの考えを再構築させる。その後、もう一度グループにてミニパフォーマンステストを行い、生徒の変容を見取っていく。本時では、努力を要する生徒を中心に見取り、全員が目標を概ね達成できるよう目指す。

また、終末において本時の振り返りを行い、「振り返りシート」に何ができるようになったのか、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標の達成状況などを記入させ、次時への学習意欲を高める。

次時でも同じ形式のミニパフォーマンステストを行い、2時間分を通して最終的に全員を見取る。主体的に学習に取り組む態度においては、7時間目に振り返りシートに記述した内容が8時間目のテストの中で実際に表れるように、テストを行う前に十分に前時の振り返りをさせてから即興のやり取りをさせる。

《採点の基準》

お互いのことをよりよく知るために…

条件1：【質問できる】Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文で質問している。

条件2：【応答できる】相手の質問に対して、その場で適切に応答している。

条件3：【継続・発展】関連する質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら、対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話している。	関連する質問をし話題を広げたり、自分の情報を詳しく伝えたりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしている。	関連する質問をし話題を広げたり、自分の情報を詳しく伝えたりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話している。	3つの条件を満たしてやり取りしている。	3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

※本時では、多くの生徒が「おおむね満足できる」状態を目指し、指導を行う。

《努力を要する状況になりそうな生徒への支援》

〈個人思考〉 ミニパフォーマンステストを行う前の場面

【支援1】

- ・お互いのことをよりよく知るために、「何を聞きたいか」「何を伝えたいか」を考えさせる。（内容面での支援）
- ・机間指導の中で、教科書やノートを振り返らせる。（言語面での支援）

〈集団思考〉 ミニパフォーマンステストの前半が終了し、学習調整を行っている場面

【支援2】

- ・生徒は自分の課題を解決するために、教師や友達からアドバイスをもらう。（言語面と内容面での支援）
- ・上手に対話をしている生徒の demonstration を見せる。（言語面と内容面での支援）

(3) 展開

1 単位時間の問題文 1 単位時間の学習課題 まとめ **白抜き** 研究との関わり

教師の活動	生徒の思考と手立て
1 Greeting	
2 帯活動 (Pair Work) ・Last Man Standing Quiz ・One Minute Conversation (20秒間)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との即興のやり取りを通して、既習事項を確認する。 ・生徒同士の即興のやり取りを通して、既習事項を確認する。
3 課題提示 ・One Minute Conversation の最後のトピックを部活動にし、やり取りさせる。(40秒間)	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が止まり困ることが想定される。 <p>ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</p>
4 個人思考 ・お互いのことをよりよく知るために、どんな質問をすればよいのか、どんなことを伝えればよいのかを考えさせる。 ・グループメンバーを伝える。相手意識をもたせる。	<p>【支援1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのことをよりよく知るために、「何を聞きたいか」「何を伝えたいか」を考えさせる。（内容面での支援） <p style="text-align: center;">↓</p> <p>内容面から考えさせることで、必要な言語教材は何かを考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の中で、教科書やノートを振り返らせる。（言語面での支援）
5 ミニパフォーマンステスト（前半） ・自分で考えた質問を元にグループ内の友達と即興のやり取りをさせる。(40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り)	<p>●指導に生かす評価【思】【主】</p> <p>全体を見ながら、1つのグループを中心に見取る。その際、<u>努力を要する生徒を把握する</u>。</p>

第Ⅲ章

6 集団思考

- ・何ができる、何がうまくいかなかったかを振り返らせ、課題を修正させる。（個人→グループ→全体で共有させる）

主体的に学習に取り組む態度

【支援2】

- ・生徒は自分の課題を解決するために、教師や友達からアドバイスをもらう。（言語面と内容面での支援）
- ・上手に対話をしている生徒の demonstrationを見せる。（言語面と内容面での支援）

7 ミニパフォーマンステスト（後半）

- ・修正した質問を用いてもう一度同じグループの友達と即興でやり取りさせる。（40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り）
- ・別のグループの友達と即興でやり取りさせる。（40秒間、3人グループ、一人2回のやり取り）

●指導に生かす評価【思】【主】

全体を見ながら、1つのグループを中心に生徒の変容を見取る。

【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】

＜何を＞ 以下の3つの条件を満たして即興でやり取りしようとしているか。

- ①【質問できる】 Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文で質問している。
- ②【応答できる】 相手の質問に対し、その場で適切に応答している。
- ③【継続・発展】 関連する質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら対話を継続している。

＜どこで＞ ミニパフォーマンステスト

＜何で＞ 行動観察、振り返りシート

- ＜手立ては＞
- ・言語面でのつまずきには、教科書やノートを振り返らせる。
 - ・内容面でのつまずきには、目的をしっかりと理解させたり、振り返りの時間を設け修正させたりすることで自ら考えさせる。

8 振り返り

- ・「振り返りシート」に記入させる。その際、何ができるようになったのか、そう判断した根拠は何か、どんな工夫をしたのか、単元の目標や自己目標の達成状況などを書かせる。

主体的に学習に取り組む態度

「お互いのことをよりよく知るために、色々な質問をしたり、自分の情報を伝えたりしながら、会話を続けることができた。（粘り強さの例）」

「ミニパフォーマンステストでは相手の質問に答えることはできたけど、自分の情報を即興で伝えることができず、話題を深めることができなかつたので、次回は自分のことでも伝えながら、やり取りできるようになりたい。（自己調整の例）」

(4) 板書

<p>《Today's Mission》</p> <p>ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合おう。</p>	<p>大事な視点</p> <p>Big Voice Pardon?</p> <p>Eye Contact Reaction</p> <p>Smile Follow-Up Question</p> <p>Try</p>
<p>《Today's Topic》</p> <p>club activity</p>	

7 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

①研究と本時の授業の関わりについて（授業者より）

- ・抽出生徒Aについては、B評価以上を想定している生徒である。本時を迎えるまでに、やり取りの中で相手から情報を詳しく聞き出すことに課題をもっていた。本時では、友達と集まり、やり取りの中で必要な情報を相談していた。2回目のミニパフォーマンステストでは、相談したことを生かしていた。主体的に学習に取り組む態度としては、自己調整を図ることができているため、B評価以上と判断した。
- ・抽出生徒Bについては、コミュニケーションに課題が見られ、手立てが必要だと想定している生徒である。本時を迎えるまでに、個別指導と生徒自身の振り返りを繰り返した。次第に生徒自身から相手に伝えることの大切さや、相手とのやり取りをより深めようとする姿勢が見られ始めた。本時では、自ら他の生徒とコミュニケーションをとり、やり取りをより深めるために、粘り強くやり取りに挑戦する姿が見られた。主体的に学習に取り組む態度としては、自己調整を図る姿が見られ始めたため、CからB評価へ判断することを今後の学習状況を見て検討していきたい。

②研究内容（3）指導計画・評価計画について

- ・どこで、何を評価するのかが明確なため、計画的に評価を行うことができる。
- ・生徒Bが言語活動の場面で進んで友人と交流しにいく様子から、自ら自己調整を図ろうとするなどの変容が見られた。自己調整のための時間が効果的に指導計画に位置付けられていたことで、生徒Bに良い変化をもたらしたと考える。

③研究内容（4）観点ごとの総括について

- ・振り返りシートの記述をどのように評価に結びつけるのかが不明瞭だった。（振り返りシートを活用することの成果としては、主体的に学習に取り組む態度を見取る際の根拠になることが挙げられる。）
- ・採点の基準に記載されている「適切に」とは、どの程度を求めているのかが判断しにくかった。今回はやり取りが重点なので、正確さがある程度欠けていても会話として成立していれば、適切であると判断してよいのではないか。また、指導にあたる教員間でその基準を明確にしておくことが大切である。
- ・生徒A、Bそれぞれの振り返りを取り上げると、生徒Bの方が毎時間の取り組み方に工夫や改善策が見られている。しかし、生徒Aより低い評価と判断されるため、振り返りをどのように評価に生かすべきなのか迷いが生じた。
- ・今回の研究授業の中だけでは、粘り強さの視点と自己調整の証拠が評価をする際に不明瞭だった。（粘り強さと自己調整の両面を評価する際の証拠としての材料が不足していた。）

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班 主任指導主事 佐藤 鮎美》

①身に付けさせたい力を明確にした単元づくりについて

第Ⅲ章

- ・単元の指導計画を作成するに当たっては、生徒が導入の段階で単元のゴールをイメージし、1単位時間の学習の目的意識をもつことができるような単元構成にすることが大切である。教師が、生徒に会話の話型を示し過ぎず、自由にやり取りをさせていた点が非常によかった。生徒にとって単元や1単位時間のゴールが明確になっているからこそ、生徒が主体的に表現する姿が見られた。

② 1単位時間の授業デザインについて

- ・本時の課題を達成するためには、これまでの学習の中で、生徒が英語でどう表現すればよいかを、具体的にイメージできていることが大切である。また、本時では、言語活動の後に、生徒が自分自身の活動を振り返ったり、教師からの指導を踏まえて改善を図ったりすることにより、自分自身の課題を明確にすることことができていた。そして、再度、言語活動に取り組む場面を設定したことにより、生徒が自分自身の課題の解決に向けて粘り強く取り組む姿が見られた。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

- ・単元の指導と評価の計画において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法及び「努力を要する」状況と判断される生徒に対する手立てが明確になっており、指導と評価の一体化が図られていることが分かる。

④ 今後の研究推進に向けて

- ・全ての生徒に資質・能力を身に付けさせるためには、評価規準（「おおむね満足できる」状況（B））を明確に位置付けることが大切である。本授業では、パフォーマンステストにおける採点基準を設定しているが、採点基準が身に付けさせたい資質・能力の定着を評価するための採点基準となっているかをしっかりと検討する必要がある。指導に当たっては、「努力を要する」状況と判断される生徒への手立てだけでなく、全ての生徒が理解を深めることができるような指導の手立てを事前に検討することが大切であり、本授業において、教師が複数の生徒の見取りから課題を把握し、全体に共有する手立ては有効であった。

《旭川市教育委員会教育指導課 指導主事 柳澤 麻弥》

評価計画について

- ・「話すこと〔やり取り〕」は、個人差も大きく、しっかりと時間をかけて指導し、伸ばしていくきたい資質・能力である。英語使用の正確さを高める指導を行うために、同じ内容のまとまりで複数単元を通して指導するなどの工夫により、時間をかけて指導することができる。言語活動を繰り返し行って時間をかけながら資質・能力を身に付けるという点で、複数単元を通して指導するよさが指導計画に表れていた。
- ・今回、複数単元を通して指導した後の記録に残す評価は、パフォーマンステストで行っているが、二つの単元の中で扱う言語材料や話題、身に付ける資質・能力に異なる部分があるため、各単元においても評価することができるよう指導計画を立てることが必要である。
- ・パフォーマンステストの結果に加え、振り返りの記述内容から、粘り強く取り組む姿や

自己調整を行っている姿が見られ、その記述内容が言語活動への取組に表れている場合は、主体的に学習に取り組む態度の評価に加味することも考えられる。生徒の振り返りでの記述が次時でどのように表れているかを見取っていくことが必要である。

8 事後分析

(1) 単元を通した指導計画と評価計画について

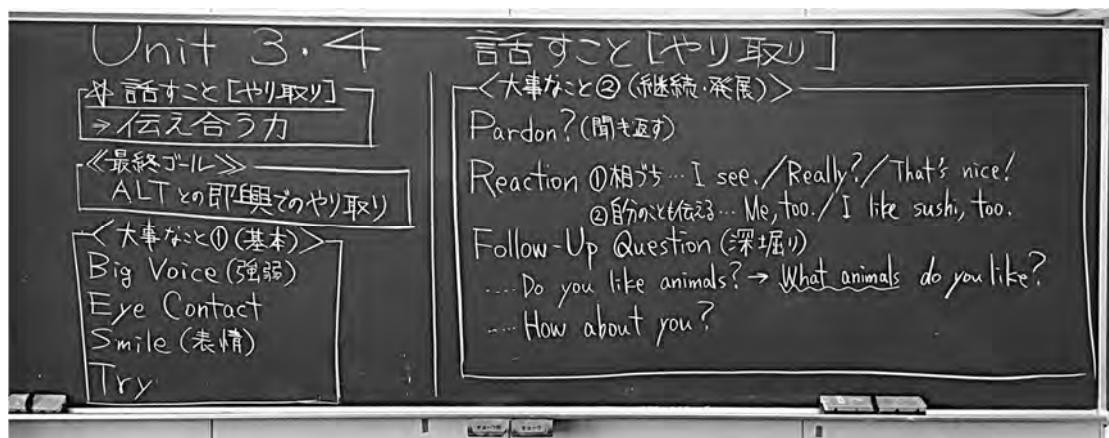
知識を相互に関連付けて思いや考えを基に創造する姿を目指すためには、資質・能力が活用・発揮される場面を図ることができる指導計画が必要である。さらに、1単位時間ごとに適切に見取ることで、生徒の学習状況を把握し、その都度、指導の改善を行いながら指導計画を進めることが必要である。

本単元は、内容のまとめ「話すこと〔やり取り〕」を基に、3課と4課を複合的に捉え、生徒が関心のある話題について様々な疑問詞を用いて相手や自分の情報を即興でやり取りできるようにすることを目指した。2つの課を複合的に捉えたことで、十分に時間をかけて言語活動を行うことができ、即興で伝え合う力を育むことができた。その一方で、言語活動の中で、正確に英語を使用させながら自己表現をさせていくことに課題が見られた。そこで、定着が不十分な表現などについては毎時間の帯活動の際に、意図的に取り扱い、教師とのやり取りや生徒同士のやり取りを行う中で表現を修正させた。単元終末に行ったALTとのパフォーマンステストでは、多くの生徒が3課と4課の言語活動で培った資質・能力を発揮し、即興でやり取りをすることができた。

主体的に学習に取り組む態度の評価においては、思考・判断・表現と一体的に見取った。見取る上で以下の3点を大切にした。

1つ目は、単元の1時間目に単元終末の言語活動をイメージさせたことである。実際に教師とALTとのやり取りの映像を見せ、最終的な姿をイメージさせた。その際、やり取りを見て感じたことを伝え合い、やり取りにおける大事な視点を全体で確認した。その後、単元の目標と連動した自己目標を設定させた。教師と生徒がゴールを共有することで、学習の見通しを持たせることができた。単元終了後に行った生徒アンケートでは、学習開始時のゴール共有について、「こんな風に話したい」「目指すところがわかり、先のことを考えることができた」「自分がどうなりたいか見通しがもてた」などの記述が見られた。

<1時間目の板書 学習の開始時点（価値付け、見通しをもつ姿）>



第三章

＜生徒Aの自己目標＞

自己目標	会話がときれないで、1つの話題でどんどん深掘りできるように、反応をしたりして相手との距離がちぢまるようにしたい。
目標達成のための工夫	疑問文を用いたり、自分の情報をalsoがlikeを使、ぐわしく伝えられるようする。

＜生徒Bの自己目標＞

自己目標	相手の話をよく聞いて、その言ふに合った言葉を選んで話したい！
目標達成のための工夫	とにかく相手の話をよく聞いたり、聞き取れなかったら「Pardon?」などを使、て聞返したりする。

2つ目は、各言語活動の中で、意図的に自己調整の場を設けたことである。すべての言語活動の中で、【個人思考→言語活動①（やり取り1回目）→集団思考（自己調整）→言語活動②（やり取り2回目）】という流れを取り入れた。言語活動①で出た課題を自己調整の場で自ら解決できるようにした。言語活動②で実際に自らの課題を解決できたかを行動観察し、変容がない場合は個に応じた指導を行った。この過程を繰り返していく中で、生徒の粘り強さや調整力を育むことができたと実感した。生徒アンケートの中には、「自己調整の場をもっと長い時間にしてほしい」などの記述があり、十分な時間の確保が必要であったと感じた。

3つ目は、振り返りシートの活用である。振り返りシートに記入させた内容は、何ができて、できなかったのか、そう判断した根拠は何か、単元の目標や自己目標の達成状況などである。生徒一人一人が何を課題だと感じ、解決したいかを振り返りシートから把握できるため、行動観察の際に生徒への手立てを講じやすくなった。また、生徒の変容も見取りやすくなった。一方で、自分の考えや思いを上手に言葉に表すことができない生徒や記述内容の根拠を明確に書けない生徒もいたため、振り返りシートだけに頼るのではなく、授業の中で一人一人をしっかりと見取っていく必要があると感じた。

【振り返りシートから課題を把握し、指導に生かした例】

振り返りシート

上側に「成果・理由・工夫」を記入させる。

下側に「課題・原因・次回」を記入させる。

【学習開始】学習の価値付け、見通しをもつ姿

【学習途中】自らの学習状況を把握し、修正する姿

【学習終了】
何ができるよう
になったのかを
実感し、学習意
欲を高める姿

振り返りシート（3課パート2 終了時点の記述）

<生徒A>

問題 (何ができるようになったかな？)
理由 (なぜできるようになったのかなぜ？)

自分が家で何をしているか伝えられた。
相手に自分の好きなアルトなどを教えることができました。

START
よし！ALTとやり取りできるようになるぞ！

相手に聞くときにつまずいてしまって、くわしく聞けなかつた。
しかし、自分で質問してあたられ、考ふがために相手をまどぼつけてしまった。
問題 (何ができるなくなったかな？)
理由 (なぜうまくいかなかったのかなぜ？)
次回 (次はこうしたい！)

<生徒B>

問題 (何ができるようになったかな？)
理由 (なぜできるようになったのかなぜ？)

将来何をしたいかどこに行きたいか聞く時に、何が好きか予想して聞いてみたら会話が広がって良かった。

START
よし！ALTとやり取りできるようになるぞ！

相手にしゃべれづらくなってしまった。
しかし、と会話をまかせてしまつた。
問題 (なぜうまくいかなかったのかなぜ？)
理由 (なぜこうしたい！)

<課題>

<課題>

「詳しく聞けなかつた」
↓

<手立て>
内容面での支援
↓

<修正>
「会話が広がつた」

前までは質問に対しての答え方が分からなかつたけど、しっかり考え方を理解したので答えることができた。

<手立て>
言語面での支援
↓

次けれど会話が続くようになれる、とにかくつねつとする気持ちが大きかったです。
「答えることができた」

生徒Aは、3課パート1では、「詳しく聞けなかつた」と記述していたため、3課パート2では、内容面で手立てを講じた。実際にやり取りはうまく行き、「(相手が)何が好きかを予想して聞いてみたら、会話が広がつた」と記述している。生徒Bは、3課パート1では、「会話に間があった」と記述していたため、3課パート2では、言語面でのつまずきを支援した。実際のやり取りで、相手の質問に答える姿を見取ることができた。「質問に対しての答え方が分からなかつたが、考え方を理解したので、答えることができた」と記述している。このように振り返りシートから教師側も生徒の課題を把握し、指導に生かすことができた。

(2) 本時における見取り方とその判断について

本時の目標は、「ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、部活動について、疑問詞 when, where, how manyなどの簡単な語句や文を用いてお互いの情報や考えなどを即興で伝え合うことができる」である。3課では、「家庭での生活」、「将来のこと」、「部屋にあるもの」の3つのトピックでやり取りを行ってきた。今回は即興性を高めるため、「部活動」という新しいトピックを提示し、ミニパフォーマンステストを行った。新しいトピックということもあり、予想通り個人思考の段階で困っている生徒が多くいた。そのため、個別による机間指導や全体指導を行った。その際、言語面や内容面での手がかり等は与えたが、教師側が考えたモデル文は提示しなかった。1回目のやり取りでは、うまくやり取りができない生徒がいたが、自己調整の場を設けることで、生徒は自ら進んで教師や友達からアドバイスをもらい、自らの課題を修正させる姿が多く見られた。また、上手にやり取りをしていた生徒の実例を見せ、本時のゴールイメージをもたせた。2回目のやり取りでは、多くの生徒が1回目よりも即興でやり取りできた。

本時における評価については、3課終末のミニパフォーマンステストと位置付け、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り、指導に生かす評価とした。また、ミニパフォーマンステストは2日間日程で行い、本時はプレテストとし、2日目に生徒全員を見取った。具体的な見取り方として、「何を、どこで、何で、手立ては」を明確にし、具体的な姿を想定し、評価を行った。本時では、うまくやり取りができずに終わってしまった生徒や正確な英語を使用できずにやり取りしている生徒が見られたので、2日目の導入場面で、言語面での指導を行い、前時の課題を確認、修正させた。2日目は、生徒全員のミニパフォーマンステストを見取り、多くの生徒が「おおむね満足できる」状況と判断した。

主体的に学習に取り組む態度の評価については、ミニパフォーマンステストの姿と振り返りシートから見えるそこに至るまでの過程を加味し、評価を行った。例えば、生徒Bの評価については、ミニパフォーマンステストから「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り、2つの観点とも「おおむね満足できる」状況と判断した。生徒Bが「おおむね満足できる」状況に至るまで、単元を通して自己の課題に粘り強く取り組み、自らの課題を修正しようと試行錯誤する姿が各言語活動の中で見られた。ミニパフォーマンステストにおいても振り返りシートで記述した内容が実際の態度として表出されていたため、「主体的に学習に取り組む態度」も「おおむね満足できる」状況と判断した。

＜生徒 B 振り返りシートの記述＞

【本時ミニパフ
オーマンステス

ト1日目（練習）
終了後の記述】
「質問の返答に
戸惑う」などの課
題。

【ミニパフォーマ
ンステスト2日目
終了後の記述】
「答えられた。質
問できた。昨日よ
り深堀りできた。」
※テストで実際の
態度として表出さ
れていた。（⇒「主
を「b」と判断し
た。）

足できる」状況と判断した。

<生徒B 振り返りシートの記述>

前までは質問に対する答える会話をどこかで方からかからなかしまって、質問をたけどしきりしてその後が止まってしまうために答えたので、答えることができた。

次はもっと会話ができるようになりつつある。聞き取りにくくするとかくつづめつける気持ちはあります。

次回はもっと深堀りをする。聞き取れなかつたら、聞きなおす。

前より会話を王理解して相手を開けた。並に聞くためヨキルしとよぶたけびしきりを用いていた。

Check Point

Unit 3

ミニパフォーマンステスト①
【友達とのやり取り】

次はもっと深堀りをしておんじが相手に伝わるようす。

昨日よりも、深ぼりができるようになりましたので、少し自己目標に近づいたことだと自己目標に近づきました。

「次はもっと深堀り[条件3]をす
る。なんとか相手に伝える。」

単元を通して、振り返
リシートから生徒Bの
試行錯誤する様子や自
己調整をしようとする
記述が見られる。

研究員の授業実践 小学校第1学年 国語科

児童が自身の経験などを関連付け、思いや考えを基に想像する姿を目指すために、
思考が連續する場面の設定を図る学習

日 時 令和3年12月14日(火) 5校時 実施
 児 童 美瑛町立美瑛東小学校 1年1組 11名
 指導者 石塚 大輔

1 単元名 ばめんのようすをくらべてよもう

「スイミー」

『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう

(教育出版 1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)は、次のとおりである。

【学習指導要領】～第1学年及び第2学年(国語科)の目標と内容～

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。
- (2) 順序立てて考える力を感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようとする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
 - 言葉の働き
 - ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する事項
 - 読書
 - エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

C 読むこと

- 構造と内容の把握(文学的な文章)
 - イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- 精査・解釈(文学的な文章)
 - エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

「読むこと」における前教材「うみへのながいたび」では、場面の様子や登場人物の行動を表す言葉に注目し、登場人物の行動やその理由を想像する学習に取り組んだ。本教材「スイミー」では、刻々と変化する場面の様子に着目し、作品の始めと終わりを比べ、その違いを捉えながら、登場人物の行動の様子やその理由を豊かに想像させたい。

また、「おはなしどうぶつえん」をつくって、本をしようかいしよう」は、図書紹介を

第Ⅲ章

目的とした学習である。図書を紹介する際の相手や目的を明確にし、児童が進んで解決を図りたくなるような言語活動を行っていきたい。

第1学年では、学習経験の浅さから、単元全体のゴールや見通しをもつことが難しいことがある。児童にとってイメージしやすく、やってみたいと思わせる言語活動を設定し、確実な資質・能力を身に付けさせたい。

(2) 児童観

登場人物の行動を具体的に想像する力については、既習教材「うみへのながいたび」などを通し、少しづつ学習経験を積みながら、その資質・能力を身に付けてきているところである。挿絵の活用などの手立てを講じ、内容の順序や場面の様子、登場人物の行動やその理由について学習してきた。言語化する際には、「(登場人物) が (何をした)」など、簡単な文で表記させた。

振り返りについては、これまでに様々な教科において、身に付いた資質・能力を自覚できるように言語化に取り組んできた。うまく言語化できない児童に対しては、「どんなことができるようになったのかな」「どうしてそう思ったのかな」などと問い合わせ、児童とともに確認したり、考えたりするようにして児童の思いを引き出すサポートをしてきた。このような学習経験を積み重ね、自らの学習状況を把握する素地を育てていきたい。

また、児童には国語科に関するアンケートを実施して、児童の学習に対する姿勢の把握と単元の指導の参考とした。質問事項は「こくごは すきですか。」「本を よむのは すきですか。」「本が すき (きらい) な りゆうは なんですか。」とした。国語科の学習及び読書が好きと答えた児童は全員の11名であった。また、読書が好きと答えた理由としては、「楽しい」や「面白い」という読書自体を楽しんでいる傾向が見られた。それ以外には、「いろいろなことが分かるから」という、読書のもつよさを自覚している意見もあった。本単元では、多くの児童が読書のよさを実感し、今後の生活に生かしていくとする意欲をもたせたい。

(3) 指導観

本単元では、「スイミー」「おはなしどうぶつえん」をつくって、本をしようかいしよう」を複合的に捉えた教材として扱い、単元で取り上げる言語活動として、相手や目的意識を明確にし、「こうちゅう先生をげん気にするために、『ゆう気がわく本』をしようかいしよう」と設定した。児童にとって身近な存在である校長先生を元気にするために、「スイミー」で内容を捉える力を身に付け、それを活用しながら自分が選んだ本の内容を整理し、紹介する活動を行い、資質・能力の確実な定着を図る。

「スイミー」は、一度は敵に生活を脅かされて孤独となりながらも、自身が住む世界の素晴らしさに触れ、徐々に元気を取り戻し、最後は知恵と勇気を振り絞り、敵を追い払う内容である。登場人物の変容が分かりやすく描かれた文学作品に、児童は夢中になることだろう。粘り強く登場人物の行動を想像し、その世界観を味わおうとすることが期待できる。その素直な思いを、「校長先生を元気にする」という目的へと発展させ、自ら本を選んで読み、主体的に学習することにつなげていきたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

① 「支持的風土の醸成」について

- ・どの学習においても、友達の意見や考えに触れ、お互いの考えを認め合ったり、自分の考え方の参考にしたりすることを奨励してきた。

- ② 「教室環境の整備」について
- ・UD型教育の視点から、教室前方には視覚的刺激になるような掲示物は避ける。
 - ・児童がこれまでの学習内容や身に付けた力を自覚するため、既習事項及び資質・能力を教室後方に掲示した。
- ③ 「学習規律の確立」について
- ・学習規律「よりよい学習をするために」（美瑛町共通）の指導を継続してきた。
 - ・「学習を支えるもの」として、学習の基盤となる、傾聴態度や机上整理などを指導する掲示物を提示している。

3 単元の目標

- (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
(知識及び技能) (1)ア
- (2) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 (知識及び技能) (3)エ
- (3) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
(思考力、判断力、表現力等) C(1)イ
- (4) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像することができる。
(思考力、判断力、表現力等) C(1)エ
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考え方を伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、内容や感想を伝える。

(関連：思考力、判断力、表現力等 C(2)イ)

5 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。 (1)ア) ②読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 (3)エ)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像している。(C(1)エ)	①進んで、場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って、内容や感想を伝えようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容(3) 指導計画・評価計画

複合的な単元における、指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付け

第Ⅲ章

〈指導計画〉

① 単元構成

本単元では、「スイミー」と『おはなしはどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう」という「読むこと」領域の単元で構成されている。

指導計画の特徴として、「スイミー」で身に付けた資質・能力を、言語活動として設定した「こうちよう先生をげん気にするために、『ゆう気がわく本』をしようかいしよう」を扱う教材『おはなしはどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう」で活用することが挙げられる。

「スイミー」の学習の目的を、「校長先生に自分が選んだ『勇気が湧く本』について、自分の思いを伝えるためには、物語の内容を理解する必要がある」と設定し、児童に学習の必要感をもたせる。「スイミー」の読みを進めながら、「物語の内容が分かった」「物語の内容を把握する方法が理解できたので、その方法を駆使しながら、校長先生に紹介する本について伝えたい」という思いをもたせていく。

また、単元の導入時に「校長先生を元気にする」といった目的に合った本を選ぶことが難しい児童もいることが予想される。そのため、事前に学校図書館と連携し、1年生でも容易に読むことができる、「ゆう気がわく本」を多数、選んでいただいた。そこから選ばせることで、安心して学習に取り組ませ、内容や感想を伝える言語活動に集中させていく手立ても準備しておく。

② 見通し、対話、振り返りを位置付けた指導計画

主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元の指導計画を学習内容に関連付けて、「開始時点」「途中段階」「終了時」と、時間や学習活動のまとまりごとに設定した。

学習の開始時点では、学習を価値付け、見通しをもたせる場面とした。単元で身に付ける資質・能力を教師と児童が共有したり、学習課題を確認して目標達成までの見通しをもったりする。本単元では、単元で取り上げる言語活動の相手である校長からのビデオレターを見せて、学習に対する意欲を高めたい。

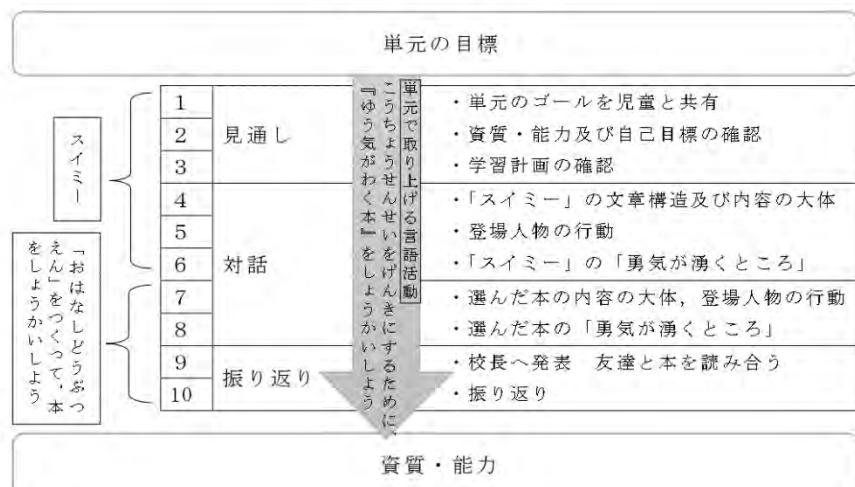
学習の途中段階では、自己の学習状況を把握したり、学習方法や内容を確認したりする。対話を通し、自己の学習が深まっていくことを実感させたい。本単元では、Google Jamboardを活用し、教材の「ゆう気がわくところ」を考え、友達と対話をしながら確認させていく。

学習の終了時は、単元の学習を整理し、開始時点で設定した目標や学習課題を達成しているか振り返らせ、単元で身に付ける資質・能力を確認させたり、他の学習や生活に生かそうとする汎用性を感じさせたりする。また、単元の終末には実際に校長に紹介する場面を設定し、学習の達成感を味わわせる。単元を通して振り返りシートを活用し、学習過程での学習状況を言語化させ、自らの学習を調整する方法を経験させ、学習を調整する力を醸成する。

③ モデルの活用

1年生という学習経験の浅さを考慮し、指導計画にはモデルを積極的に設定し、児童が考えを構築するときの指針としたい。グッドモデルは児童に学習の方向付けや見通しをもたせ、安心感を与える。今回はバッドモデルを併用し、よりグッドモデルの内容を強調して理解させたい。

【指導計画のイメージ図】



〈評価計画〉

指導に生かす評価は、
「指導改善・授業改善」を目的とし、毎時間行うものであるとおさえ、児童の学習状況を教師が把握しながら進めていく。記録に残す評価は、単元の目標として設定した資質・能力ごとに、主に単元の終末や、時間や学習活動のまとめを節目に行うものとする。

そこで、二つの教材を組み合わせ、「スイミー」と『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしようの資質・能力を、段階的かつ複合的に身に付けさせていきたいと考えた。

「知識・技能」の評価については、①②ともに『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう」の学習で見取り、記録に残す評価を行う。①については、「スイミー」で指導に生かす評価を行いながら児童把握や支援を行い、7時間目において自分が選んだ本の登場人物の行動や様子を考え、友達に伝える際に、「誰が」「何をした」という視点をもつているかで評価する。②については、単元の終末において、友達が選んだ本を読み合い、感想を交流する場面で評価を行う。

「思考・判断・表現」の評価については、主に「スイミー」の学習で指導に生かす評価を行い、その後の自分が選んだ本の内容について考える学習活動において記録に残す評価を行う。これは、児童が「校長先生に『勇気が湧く本』を紹介したい」という思いをもち、自分が選んだ本の勇気が湧く場面を考えたり、友達と話し合ったりすることで、場面の様子や登場人物の行動を想像することができるからである。

「主体的に学習に取り組む態度」については、1年生という発達段階と、国語科の教科特性を考慮して見取り、評価をする必要がある。主体的に学習に取り組む態度における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」のうち、1年生という学習経験の浅さ、メタ認知の未習熟から、「自らの学習を調整しようとする側面」の評価は、実際には難しい場合が多い。そのため、本単元では、特に粘り強さを發揮してほしい場面として指導と評価を行っていく。しかし、中・高学年で自らの学習を調整することが実現できるよう、その基礎を少しずつ築いていく必要がある。「『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかいしよう」では、単元で取り上げる言語活動を行うことから、学習の自己調整に向けたアプローチや学習支援を行っていく。また、振り返りシートの記述と実際の学習の様子を照らし合わせながら、評価の材料としていく。

【評価計画のイメージ図】

ス イ ミ ー	知・技		思・判・表		主
	知①	知②	思①	思②	
1・2・3		指導			指導
4・5	指導		指導		
6				指導	指導
7	記録		記録		
8				記録	記録
9・10		記録			

(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文

學習課題

まとめ

◎目標

記録

記録に残す評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	◎勇気が湧く本を選び、紹介する活動について			

第三章

2	て、学習課題を設定し、見通しをもつことができる。 ○教師による読み聞かせを聞き、本はいろいろな気持ちにしてくれることを知る。 ・楽しい　・わくわくする　・どきどき ・はらはら　・元気になる　など ○校長先生からのビデオレターを確認し、単元のゴールを教師と共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">校長先生を元気にするために、『勇気が湧く本』を紹介しよう。</div> ○紹介する方法を、グッドモデルとバッドモデルを比較して確認する。 ○振り返りシートを活用して、単元を通して身に付ける資質・能力を確認し、個人目標を設定する。 ○学習計画を確認する。 ○校長先生に紹介したい本を選び、通読する。 ○「スイミー」の範読を聞く。 ○学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分が選んだ本の「勇気が湧くところ」を伝えて、校長先生に元気になってほしいな。そのため、「スイミー」の「勇気が湧くところ」を探していく。</div>	・観察 ・振り返りシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て 本が与える影響に気付けない場合は、これまでの読書体験を想起させたり、教師の読書体験を参考にさせたりする。</div>	・観察 ・振り返りシート <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て 「勇気が湧く本」を紹介するという学習の見通しをもてるように、簡単な物語を紹介し、イメージをもたせる。</div>
3	<div style="text-align: center;">主体的な学び</div>		
4	○場面の様子に着目し、登場人物の行動の様子や理由を想像することができる。 ○課題を確認する。	記録① ・観察 ・Google Jam boardの記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て 登場人物の行動の様子に着目させ、叙述には「誰が」「何をした」などが表現されていることに気付かせる。</div>	記録① ・観察 ・Google Jam boardの記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て 物語の内容の大体を掴むため、挿絵や様子を表す叙述に注目させる。</div>
5			記録① ・観察 ・Google Jam boardの記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て スイミーが元気を取り戻した理由を考える際、友達の意見を確認するよう促したり、スイミーの行動を表す叙述に着目させたりする。</div>
6			
7			
8	○挿絵を基に、主な出来事など、文章の構造を大まかに捉える。 ①きょうだいたちとの暮らし ②おそろしいまぐろ ③元気を取り戻し、大きな魚のアイディアを思い付く ④まぐろを追い出す ○挿絵や叙述を基に、物語の内容の大体を捉える。 ・場面の様子「何があった」 ・「誰が」「何をした」 ・会話文「どのようなことを言った」 ○スイミーの行動を想像する。 ・文章の構造を基に、特に序盤と終盤の違い	記録② ・観察 ・Google Jam boardの記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導の手立て スイミーの行動を想像する</div>	
本時			

	<p>に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「スイミー」を読み、自分が「勇気が湧く」と感じた場面について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboard を使用し、付箋を貼って叙述の共有を図る。 ・自分が選んだ場面について、登場人物の行動を確認したり、選んだ理由や気持ちを整理したりする。 ・自分の「勇気が湧く場面」を決める。 ○ 「勇気が湧く場面」を交流する。 ○ 友達の発表を聞き、自分の考えを検討したり、振り返ったりする。 ○ 「スイミー」で学習したことを生かし、自分が選んだ本の「勇気が湧く場面」を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動をおさえる。 ・選んだ理由や自分の気持ちを明確にする。 ○自分が選んだ本の「勇気が湧く場面」を紹介するために、Google Jamboard を準備する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「スイミー」で学習したように、登場人物の行動や場面の様子に注目したら、「勇気が湧くところ」を見付けられたよ。早く校長先生に伝えたいな。</p> </div>	<p>ため、挿絵を基に場面の様子に着目させたり、会話文から行動の理由を想像させたりする。</p>	
9 ・ 10	<p>◎発表をしたり、友達の発表を聞いたりして、読書に親しみながら自分の選んだ本の内容や感想を伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返り、課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校長先生を元気にするために、自分が選んだ本の「勇気が湧くところ」を伝えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○校長先生に「勇気が湧く場面」を伝える練習をして、内容の確認をする。 ○校長先生に自分が選んだ本を紹介する。 ○校長先生の感想を聞き、成果を実感する。 ○友達が選んだ本を読み合い、内容や「勇気が湧く場面」の交流をする。 ○校長先生を元気にするために本を読んで内容や気持ちを伝えるという学習を通して学んだことを振り返る。 ・振り返りシートを活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校長先生を元気にすることができたよ。嬉しいな。本は読んだ人をいろいろな気持ちにすることが分かったから、今度は自分もたくさんの中の本を読んでみたいな。</p> </div>	<p>記録②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <p>指導の手立て</p> <p>これまでに読んだことのない本をすすんで読むよう促す。</p>	

第Ⅲ章

7 本時の学習（10時間扱い 6／10）

(1) 目標

- ・挿絵や叙述を基に場面の様子に着目し、スイミーの行動を想像して、自分が「読むと勇気が湧く」と感じた場面について考えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・自分が「読むと勇気が湧く」と感じた場面について、叙述に着目したり、友達と交流したりして、粘り強く試行錯誤して考えることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時における18次研究との関わり

研究内容(4) 観点ごとの総括

特に、粘り強さを発揮してほしい場面としての、主体的に学習に取り組む態度の評価

本時では、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け、粘り強い取組を行おうとしたり、自らの学習を調整しようとしたりする姿から、主体的に学習に取り組む態度について指導に生かす評価を行う。

「自らの学習を調整しようとする側面」については、低学年は適切に見取り、評価することは難しいことから、その基礎を少しづつ築いていく指導を行いたい。

登場人物の行動を想像する際、着目した場面の挿絵や様子などの叙述を基に、登場人物が何をしたのか、行動の理由は何かを考える。本時は、スイミーが物語の序盤と終盤で大きく様子が異なることに着目し、その変化を捉えさせる。そして、場面の様子やスイミーの行動を表す叙述を基に、「勇気が湧く場面」を考えさせていく。児童が粘り強く試行錯誤しながら、叙述を基に考えたり、Google Jamboardを活用して友達と交流したりする姿から評価を行う。

振り返りシートについては、学習の見通しをもたせたり、自己の学習状況を確認したりすることにおいて活用していく。

《努力を要する状況になりそうな児童への指導の手立て》

<場面の様子やスイミーの行動などを想像する場面>

【手立て1】挿絵などを活用し、物語の序盤と終盤でスイミーの行動が異なることを確認させる。

<勇気が湧く場面を考える場面>

【手立て2】主な出来事など、大まかな文章の構造や、スイミーの序盤と終盤の行動の違いを確認させる。

<友達と交流する場面>

【手立て3】友達との交流を通して、場面を選んだ理由を考えさせる。

(3) 展開

1 単位時間の問題文



1 単位時間の学習課題



まとめ



白抜き研究との関わり

教師の活動	児童の思考と手立て
<p>1 前時までの学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動と、その目的を確認する。 ・内容の大体を捉えたことを確認する。 ・本時は勇気が湧く場面を見付ける学習を行うことをおさえる。 <p>2 本時の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの行動の叙述を基に、「スイミー」の「勇気が湧く場面」を見付けることをおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboard から、既習事項を確認する。 「校長先生を元気にするために、早く『勇気が湧く本』を紹介したいな。」 「前回は、スイミーが何をしたか、何を言ったかに注目したね。」 <ul style="list-style-type: none"> ・物語の主な出来事を確認し、文章の大まかな構造をおさえる。 「『スイミー』は、大きく4つに分けられたね。どこに注目したらいいのだろうね。」
スイミーの物語から、「勇気が湧くところ」を見付けよう。	
<p>3 物語の序盤と終盤を比較させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーが序盤と終盤では行動や様子が異なることに気付かせる。 <p>「スイミーは、物語の初めと終わりでは、どう変わったでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を基に、スイミーの行動や様子について、曲線で視覚的に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の序盤は落ち込んでいるが、終盤は元気を取り戻していることを確認する。 「初めの方は『こわかった、さびしかった、とてもかなしかった。』と書いてあるが、終わりの方は「出てこいよ。みんなであそぼう。」と言っているよ。」 <p>【手立て 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵などを活用し、物語の序盤と終盤でスイミーの行動が異なることを確認させる。 <p>「初めは元気がないけど、終わりでは元気を取り戻して、まぐろを追い出したよ。」</p> <p>●指導に生かす評価【思】【主】 全体を見ながら、努力を要する児童を把握する。</p>
<p>4 「読むと勇気が湧く」と感じた場面を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に、「勇気が湧くところ」を考える。 <p>「物語を読んで、勇気が湧くところを考えて、付箋を貼りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動を表す叙述に着目させる。 <p>「登場人物がどんな行動をしたところが、『勇気が湧く』と感じますか。」</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Jamboard の全文表示に付箋を貼る。 <p>「わたしは、スイミーが『ぼくが、目になろう。』といったところが、勇気が湧くところだと思いました。」</p> <p>【手立て 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な出来事など、大まかな文章の構造や、スイミーの序盤と終盤の行動の違いを確認させる。 <p>●指導に生かす評価【思】【主】 努力を要する児童を中心に、叙述を基に、登場人物の行動を想像して、勇気が湧く場面を考えているかを見取る。</p>

第Ⅲ章

5 全体で交流する。

- ・Google Jamboard を活用し、「勇気が湧く場面」を確認する。
「どうしてその場面が『勇気が湧くところ』だと思ったのですか。」「友達の考えを聞いて、どう思いましたか。」
- ・勇気が湧くと感じた理由を明確にして、Google Jamboard に記述させる。
「どうして『勇気が湧くところ』だと思ったのか、理由を付箋に書きましょう。」

主体的に学習に取り組む態度

【手立て3】

- ・友達との交流を通し、場面を選んだ理由を考えさせる。
「友達の考えを聞いて、理由をもつことができたよ。」

●指導に生かす評価【思】【主】

努力を要する児童を中心に、友達との交流を通して、勇気が湧く場面について粘り強く考えていくかを見取る。

主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方

- <何を>
 - ・叙述に着目したり、友達と交流したりして、「勇気が湧く場面」をどこにするか粘り強く考えることができているか。
- <どこで>
 - ・自分なりに考えをもつ場面
 - ・友達の考えを交流する場面
- <何で>
 - ・Google Jamboard の記述、観察
- <手立ては>
 - 1 描画などを活用し、物語の序盤と終盤でスイミーの行動が異なることを確認させる。
 - 2 主な出来事など、大まかな文章の構造や、スイミーの序盤と終盤の行動の違いを確認させる。
 - 3 友達との交流を通し、場面を選んだ理由を考えさせる。

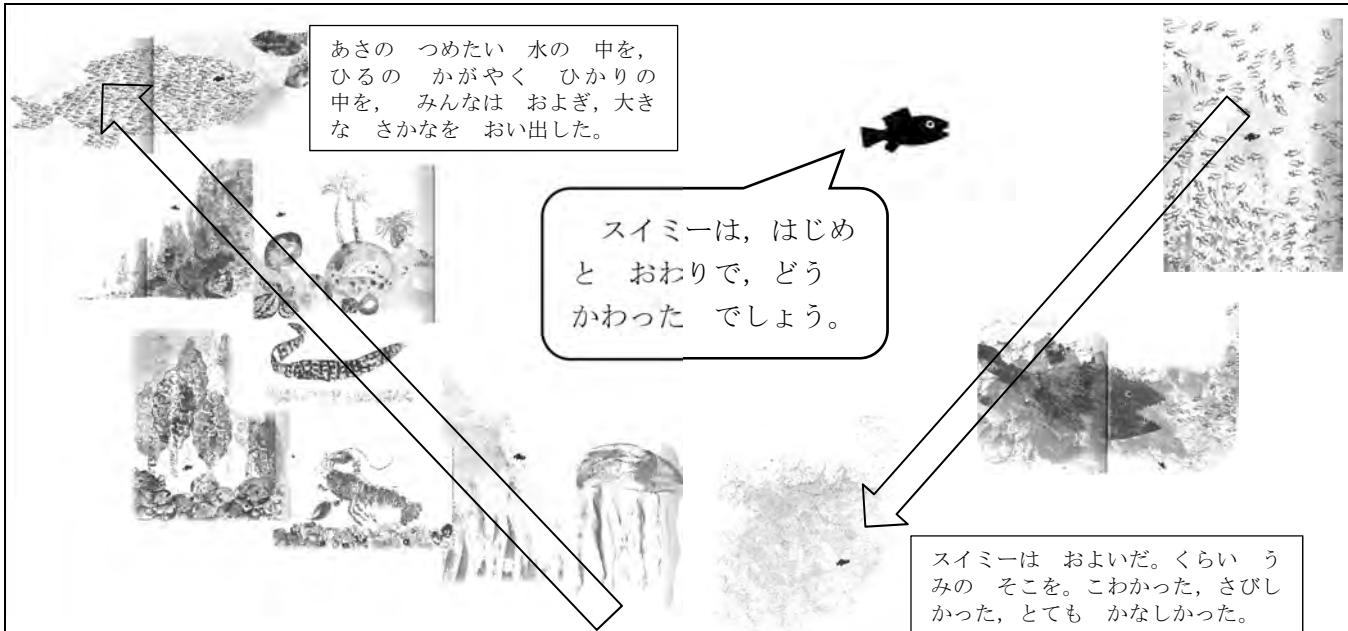
6 振り返りを行い、自己の学びを確認させる。

友達と交流もして、「スイミー」の「勇気が湧くところ」を見付けることができたよ。今度は、自分の選んだ本の「勇気が湧くところ」を見付けて、校長先生に紹介したいな。

7 次時の見通しをもたせる。

- ・次時は、自分が選んだ本の勇気が湧く場面を確認する学習を行うことをおさえる。

(4) 板書



第Ⅳ章 研究協力校の授業実践

○旭川市立永山南中学校	第1学年	数学科
授業者	青木俊也	教諭
研究部	加納宏康	教諭
○旭川市立陵雲小学校	第6学年	国語科
授業者	森下ほのか	教諭
研究部	東海林敦子	教諭

知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、 既習内容や経験と関連付けた思考の促進を図る学習

日 時 令和3年10月13日（水）5校時 実施
生 徒 旭川市立永山南中学校1年3組 35名
指導者 青木俊也

1 単元名 5章「比例と反比例」 (教育出版 1年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容（抜粋）は、次のとおりである。

【学習指導要領】～第1学年（数学科）の目標と内容～

1 目標

- (1) 正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

2 内容

C関数（1）

比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 関数関係の意味を理解すること。
- (イ) 比例、反比例について理解すること。
- (ウ) 座標の意味を理解すること。
- (エ) 比例、反比例を表、式、グラフなどに表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。
- (イ) 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

（用語・記号）

関数 変数 変域

小学校算数科においては、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、比例や反比例の関係を表、式、グラフのそれぞれで考察した。中学校数学科では、変域を負の数を含む有理数まで拡張し、比例、反比例の特徴を、文字を用いた式により定義し、式に基づき比例、反比例の性質を一般的に考察する。また、第2学年「一次関数」や、第3学年「関数 $y = ax^2$ 」の学習の基盤となる章であり、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数関係を見いだし考察し表現する力を高めていくことが大切である。そのためには、関数関係を表現したり、処理したりするための手段である表、式、グラフを関連付けながら、学習を進めることが重要である。

第Ⅳ章

(2) 生徒観

反応がよく、教師の発問や生徒の発言に対して積極的に意見を言ったり、一つの問題に対する様々な求め方や考え方を発表したりすることができる。一方で、授業では理解しているものの、復習に課題があり、時間が経つと学習内容を忘れてしまう生徒もいる。また、数学の基本的な内容の習得に困難を示す生徒も数名いるが、粘り強く前向きに課題に取り組むことができている。

(3) 指導観

本単元では、具体的な事象から関数関係を見いだし考察し表現することを学習する。小学校算数科の既習事項を振り返りながら、表、式、グラフを相互に関連付けて学習することを大切にする。予想を取り入れ、生徒が主体的に粘り強く学習を進められる授業を構築する。また、発問を工夫し、生徒が自信をもって自分の意見や考えを表現できるようにし、対話的な学習を進めていきたい。また、生徒が段階的に学習できるように、「2節 比例」を学習した後に「4節 比例と反比例の活用」の比例の活用の部分のみを先に学習することとする。

日常生活には、関数としてみることができる多くの事象が存在する。生徒の身近な事象を問題に取り上げるだけでなく、今後学習する一次関数や関数 $y=ax^2$ なども紹介しながら伴って変わる2つの数量の関係に着目していきたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

① 「教室環境の整備」について

- ・教室掲示では、必要な掲示物のみを掲示した。
- ・机上には、その授業で必要な物のみを準備させた。

② 「学習規律の確立」について

- ・チャイムで授業が始まり、チャイムで授業を終えることを心がけた。
- ・ノートの作り方やワークの取り組み方について丁寧に確認した。

③ 「支持的風土の醸成」について

- ・間違ってもよいことを強調し、意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけた。

3 単元の目標

- (1) 関数関係や座標の意味、比例、反比例について理解し、比例、反比例を表や式、グラフなどに表すことができる。
(知識及び技能)
- (2) 比例、反比例としてとらえられる2つの数量について調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだしたり、比例、反比例を使って具体的な事象をとらえ考察し表現したりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を使った問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。
(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 関数関係の意味を理解している。 比例、反比例について理解している。 座標の意味を理解している。 比例、反比例を表、式、グラフなどに表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだしている。 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容（3）指導計画・評価計画

指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付け

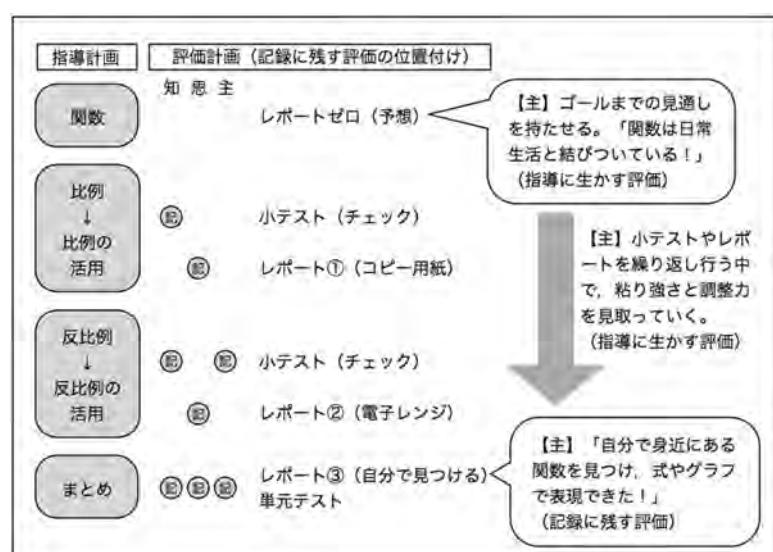
<指導計画>

本単元は、「1節 関数」「2節 比例」「3節 反比例」「4節 比例と反比例の活用」の4つの小単元で構成されているが、今回は「1節 関数」「2節 比例」「4節 比例と反比例の活用（比例の活用のみ）」「3節 反比例」「4節 比例と反比例の活用（反比例の活用のみ）」の順で構成し、生徒が段階的に学習できるように工夫した。

「1節 関数」では、単元の目標や最終課題を生徒と共有し、単元の見通しをもたせる学習を行う。「2節 比例」と「3節 反比例」では、関数や変域、座標平面などの関数における基本的な知識を学習する。また、比例や反比例の関係について表や式、グラフで表したり、関数関係の1組の値から式を求めたりするなど、表、式、グラフを相互に関連付けて関数関係について考察する学習内容となっている。「4節 比例・反比例の活用」では、比例・反比例を用いて具体的な事象を捉え説明したり、表現したりする。そのために、具体的な事象を式で表し、それが比例・反比例であるかどうかを判断したり、具体的な事象を比例・反比例とみなすことによって問題を解決したりする学習内容となっている。

<評価計画>

「知識・技能」については、各小単元終了後に行う小テストと単元テストで記録に残す評価を行う。「思考・判断・表現」については、「4節 比例・反比例の活用」の場面において、レポートにて記録に残す評価を行う。「主体的に学習に取り組む態度」については、「1節 関数」でゴールまでの見通しをもたせる工夫を行う。最終レポートと同じような課題を提示し、関数と日常生活が結び付いているかを予想させ、学習開始時の記述や様子を見取る。ま



た、前半に比例の学習に取り組ませ、前半の最後にレポート①を行わせ、指導に生かす評価を行う。後半は、反比例の学習に取り組ませ、レポート②で見取り、指導に生かす。小

第Ⅳ章

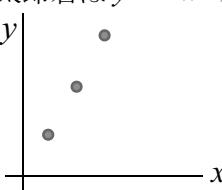
テストやレポートを粘り強く取り組ませる中で、自らの学習を調整させながら、主体的に学習に取り組む態度を育てていく。最終的に、まとめてレポート③を行わせ、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り、振り返りシートの記述を加味しながら記録に残す評価を行う。

指導に生かす評価としては、毎時間の授業ノートや観察、振り返りシートから見取った生徒の疑問などを把握し、個に応じた指導や授業改善に生かしていく。

(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文 学習課題 まとめ 目標 記録 記録に生かす評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	<p>◎具体的な事象の中にある2つの数量関係の変化や対応の様子を捉え、関数関係にある身近な事象を見つけようとしている。</p> <p>主体的な学び</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>1辺2cmの正方形を図のように規則正しく並べていく。段数が増えるに伴って変わるものを見つける。</p> <p>1段目 2段目 3段目</p> <p>○高さ、横の長さ、面積を取り上げる。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>段数とどのような関係があるだろうか。</p> <p>○表などを用いることが有効であることを理解する。</p> <p>○関数の意味を確認する。</p> <p>○身近にある関数関係を探す。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・レポート（予想） ・振り返りシート <p>指導の手立て 定期的に学習の振り返りを行わせ、学習の達成状況を把握する。 ・必要に応じて学習調整の場を設定する。</p>
2	<p>◎関数や変数、変域の意味を理解することができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>次の(1)～(3)で、yがxの関数といえるものを選びなさい。</p> <p>(1)駅まで500mの道のりをxm進んだときの残りの道のりym</p> <p>(2)1辺xcmの正方形の周の長さycm</p> <p>(3)ページ数がxページの本の値段y円</p> <p>○前時の学習を振り返りながら、関数や変数の意味を確認する。</p> <p>○数直線を用いながら、変域を確認する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・身近な関数…正方形の一辺の長さと周の長さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 数直線を用いながら、以下と未満の違いや不等号の向きを揃えて表現する必要性を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <p>指導の手立て 定期的に学習の振り返りを行わせ、学習の達成状況を把握する。 ・必要に応じて学習調整の場を設定する。</p>
3	<p>◎定数、比例、比例定数の意味、比例の変化や対応の特徴を理解し、比例の関係を表や式で表すことができる。</p> <p>○問題を把握する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 速さ、時間、距離の関係を丁</p>	

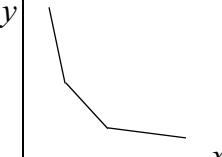
	<p>次の①～③で、y が x に比例るのはどれ？</p> <p>① 時速 60 km で x 時間走った時の道のり y km ② 時速 x km で 5 時間走った時の道のり y km ③ 時速 x km で y 時間走った時の道のり 100 km</p> <p>○①～③をそれぞれ表・式で表し、y が x に比例するかどうかを確認する。</p> <p>○定数・比例・比例定数について確認する。</p> <p>○表をもとに比例の変化や対応の特徴を確認する。</p> <p>○負の数においても比例が成立することを確認する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 身近な関数…時間と道のり 	<p>寧に確認しながら表や式を作らせる。 変域が負の数の場合でも、正の数の場合をもとにして比例の特徴を確認させる。</p>												
4	<p>○比例の関係にある数量の 1 組の値から、比例の式を求めることができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>ある比例の表がある。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x</td><td>…</td><td>0</td><td>…</td><td>3</td><td>…</td> </tr> <tr> <td>y</td><td>…</td><td>0</td><td>…</td><td>-9</td><td>…</td> </tr> </table> <p>y を x の式で表そう。</p> <p>○『y を x の式で表す』の意味を確認し、問題に取り組む。</p> <p>○表や $y = ax$ の式に代入することで求められることを確認する。</p> <p>○比例の式を求める練習問題に取り組む。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	x	…	0	…	3	…	y	…	0	…	-9	…	<ul style="list-style-type: none"> • 観察 • ノート <p>指導の手立て 表がなくとも、1 組の値を比例の式に代入することで求められることを丁寧に確認し、練習問題で理解を深めさせる。</p>
x	…	0	…	3	…									
y	…	0	…	-9	…									
5	<p>○座標軸や座標の意味を理解することができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>出席番号○番の人はこの教室のどこにいるだろうか？</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>人に伝わるように○番の人の場所を説明しよう</p> <p>○廊下側から△番目、前から◇番目など、ある場所を基準に場所を説明していることを確認する。</p> <p>○住所などを例にあげながら、座標や座標軸の意味を確認する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 観察 • ノート <p>指導の手立て 具体的な事象から座標を表す意味を考えさせ、座標平面に座標をとらせる。</p>												
6	<p>○比例のグラフが負の数にまで拡張することができることを知り、比例のグラフの特徴を理解できる。</p> <p>主体的な学び</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>太郎君は $y = 2x$ のグラフを次のようにかいた。</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td> </tr> <tr> <td>y</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td> </tr> </table> <p>正しいだろうか？</p> <p>○予想する。</p> <p>○x が整数でない場合を取り上げ、グラフが正しくないことを確認する。</p>	x	1	2	3	y	2	4	6	<ul style="list-style-type: none"> • 観察 • ノート <p>指導の手立て 小学校の比例のグラフとの違いを丁寧に確認し、負の数へ拡張できることを理解させる。 比例定数が負の数の場合は、表を作ることで右下がりのグラフになることを理解させる。</p>				
x	1	2	3											
y	2	4	6											

第Ⅳ章

	<p>○課題を把握する。</p> <p>$y = 2x$ の正しいグラフをかこう。</p> <p>○比例のグラフは原点を通る直線であることを確認する。</p> <p>比例のグラフは、原点を通る直線となる。</p> <p>○練習問題で確認し、本時の学習を振り返る。</p>		
7	<p>○比例の関係をグラフに表すことができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>次の比例のグラフをかこう。</p> <p>① $y = 3x$</p> <p>② $y = -x$</p> <p>③ $y = \frac{1}{2}x$</p> <p>○表をもとにグラフをかく。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>もっと楽にグラフをかく方法はないだろうか。</p> <p>○点が2つ決まれば直線がただ1つに決まることと、原点とその他1点を取ることでグラフがかけることを確認し、実際にグラフをかく。</p> <p>○かかれた比例のグラフを示し、グラフから式を求める。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な関数…電気使用量と料金 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 表を作らずとも簡単にグラフがかけることを実感させるため、練習問題では比例定数が分数の比例のグラフを多くかかせる。</p>	
8	<p>○今まで学習した内容を振り返りながら、問題を解くことができる。</p> <p>○基本のたしかめ</p> <p>○小テスト</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な関数…針金の長さと重さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート <p>指導の手立て 学習の振り返りから、学習の達成状況を把握させる。</p>
9	<p>○比例の関係を、表、式、グラフなどを使って処理したり、表現したりすることができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>重さ360gの画用紙の束がある。これと同じ画用紙20枚の重さをはかると30gであった。画用紙の束の枚数を求めなさい。</p> <p>○枚数と重さは比例の関係にあることに気付く。</p> <p>○表や式などから画用紙の束の枚数を求めさせる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な関数…画用紙の重さと枚数 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 比例の関係にあることを導くことが難しい場合は、比例式の性質の考え方でも求められることに触れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・振り返りシート <p>指導の手立て 定期的に学習の振り返りを行わせ、学習の達成状況を把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学習調整の場を設定する。
10	<p>○具体的な事象の中の数量関係に着目し、式やグラフを適切に使って問題を解決することができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>太郎君と花子さんは学校から図書館までの1800mを走った。太郎君は分速150m、花子さんは分速120mの速さでそれぞれ図書館まで向かった。</p> <p>① x分後の道のりを ymとして、2人の動きを式で表そう。</p> <p>② 2人の動きをグラフで表そう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て グラフから読み取る力を育むため、あえてオープンエンドの発問を取り入れ</p>	

	<p>○立式して、グラフをかかせる。</p> <p>グラフからいろいろなことを読み取ろう。</p> <p>○太郎君の到着時刻や、到着時の時間差、2人の差が300mになるのはいつかなど、グラフから読み取れることを確認する。</p> <p>○練習問題として、別のグラフを提示し、グラフから式を読み取る。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	る。		
11	<p>○今まで学習した内容を振り返りながら、比例の関係を、表、式、グラフなどを使って処理したり、表現したりすることができる。</p> <p>○コピー用紙1枚の厚さの求め方を、表や式、グラフなどを用いてレポートにまとめる。</p> <p>・身近な関数…コピー用紙の枚数と厚さ</p>	<p>・レポート 記録 指導の手立て</p> <p>コピー用紙500枚の厚さは3.5cmであることを確認させる。</p>	・レポート	
12	<p>○具体的な事象から2つの数量が反比例の関係であることを捉えるとともに、その関係を式に表すことができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>面積が24 cm^2の長方形の土地がある。 縦、横の長さはそれぞれ何cmだろうか？</p> <p>○縦、横の長さをいくつか取り上げ、答えが複数あることを確認する。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>縦の長さと横の長さにはどのような関係があるのだろうか。</p> <p>○縦の長さと横の長さの関係について確認する。</p> <p>○反比例について確認し、比例定数が負の数の場合にも反比例の性質が成り立つことを理解させる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・身近な関数…面積が一定の長方形の縦の長さと横の長さ</p>	<p>・観察 ・ノート</p> <p>指導の手立て</p> <p>具体的な事象の中から反比例の関係としてとらえられる2つの数量を見出させる。</p>	<p>・観察 ・振り返りシート</p> <p>指導の手立て</p> <p>定期的に学習の振り返りを行わせ、学習の達成状況を把握させる。</p> <p>・必要に応じて学習調整の場を設定する。</p>	
13	<p>○反比例の変化や対応の特徴を理解し、反比例の関係を表や式で表すことができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>次の①～③で、yがxに反比例するのはどれ？</p> <p>① 縦$x\text{ cm}$、横$y\text{ cm}$の長方形の面積は20 cm^2</p> <p>② 1分間に5ℓずつの割合で水を溜める。x分後の水の水量を$y\ell$とする。</p> <p>③ 15 kmの道のりを時速$x\text{ km}$で移動するとy時間かかる。</p> <p>○①～③をそれぞれ表、式で表し、yがxに反比例するかどうかを確認する。</p> <p>○定数・反比例・比例定数について確認する。</p> <p>○教科書を用いて、反比例の関係にある1組の数量から反比例の式を求めさせる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・身近な関数…一定の割合で水を溜めたときの時間と水量</p>	<p>・観察 ・ノート</p> <p>指導の手立て</p> <p>速さ、時間、距離の関係を丁寧に確認させながら表や式を作らせる。</p>		

第IV章

14	<p>◎反比例のグラフの特徴とかき方を理解することができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>太郎は、 $y = \frac{8}{x}$ のグラフを次のようにかいた。</p>  <table border="1" data-bbox="492 370 746 449"> <thead> <tr> <th>x</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>4</th> <th>8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>y</th> <td>8</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>正しいだろうか？</p> <p>○正しくないことを確認し、課題を把握する。</p> <p>なぜ反比例のグラフは曲線になるのだろうか。</p> <p>○比例のグラフは増え方が一定であることから直線になることを確認する。</p> <p>○表などをもとに、反比例は増減が一定ではないことから曲線になることを確認する。</p> <p>反比例のグラフはなめらかな曲線（双曲線）となる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	x	1	2	4	8	y	8	4	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 比例のグラフでは直線になることを取り上げ、比例のグラフとの違いに目を向けさせる。</p>		
x	1	2	4	8										
y	8	4	2	1										
15	<p>◎反比例のグラフをかいたり、反比例のグラフから式を求めたりすることができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>次の比例のグラフをかこう。</p> <p>① $y = \frac{8}{x}$ ② $y = \frac{6}{x}$ ③ $y = -\frac{12}{x}$</p> <p>○表をもとにグラフをかく。</p> <p>○反比例のグラフを提示し、グラフから式を求める。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 比例のグラフと異なり、反比例のグラフを正確にかくことは難しいことに触れながら、格子点に座標を取ることでグラフをかかせる。</p>												
16	<p>◎今まで学習した内容を振り返りながら、問題を解くことができる。</p> <p>○基本のたしかめ</p> <p>○小テスト</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート 記録 	<p>指導の手立て 学習の振り返りから、学習の達成状況を把握させる。</p>										
17	<p>◎反比例の関係を、表、式、グラフなどを使って処理したり、表現したりすることができる。</p> <p>○問題を把握する。</p> <p>歯車 A, B があり、歯車 A の歯数は 30 個、1 分間に 10 回転する。歯車 A にかみ合わせる歯車 B の歯数は x 個、1 分間に y 回転する。y を x の式で表そう。</p> <p>○2つのかみ合った歯車が回転するとき、回転数と歯数の積が等しくなることを生徒とのやりとりを通して確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート <p>指導の手立て 歯車 B の歯数を 30, 15 にしたときなどを例にあげ、図を用いながら丁寧に説明する。</p>												

	○反比例の式になることを確認する。 ○練習問題に取り組む。 ☆身近な関数…歯車の歯数と回転数			
18	○今まで学習した内容を振り返りながら、比例・反比例の関係を、表、式、グラフなどを使って処理したり表現したりすることができる。 ○電子レンジの電力と時間の関係について、表、式、グラフなどを用いてレポートにまとめる。 ○身近にある比例・反比例の関係がある事象を探し、まとめる準備をする。		・レポート 記録 指導の手立て 電子レンジの電力と時間は反比例の関係にあることを伝える。	
19	○今まで学習した内容を振り返りながら、比例・反比例の関係を、表、式、グラフなどをを使って処理したり、表現したりすることができる。 ○身近にある比例・反比例の関係がある事象をレポートにまとめさせる。 ☆身近な関数…電子レンジの時間とワット数		・レポート 記録	・レポート ・振り返りシート 記録 指導の手立て 学習の振り返りから、学習の達成状況を把握させる。
20	○今まで学習した内容を振り返りながら、問題を解くことができる。（単元テスト） ○単元テスト ○振り返りシートにて単元全体を振り返る。	・単元テスト 記録	・単元テスト 記録	

6 本時の学習（20 時間扱い 1／20）

(1) 目標

具体的な事象の中にある 2 つの数量関係の変化や対応の様子を捉え、関数関係にある身近な事象を見付けようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時における 18 次研究との関わり

研究内容(4) 観点ごとの総括

本時における主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方とその判断

本時では、具体的な事象から 2 つの数量関係に着目し、表や式を用いて数量関係を表現することを切り口とし、身近にある 2 つの数量関係を自分で見付けることを目標とする。評価については、本時の問題における比例の関係（高さ）から、小学校の既習事項である反比例も取り上げ、身近にある比例・反比例の関係にありそうなものを探すことで「主体的に学習に取り組む態度」を見取り、指導に生かす評価を行う。本時の段階では比例・反比例以外の関数が出てきてもよい。この単元を通して 2 つの数量関係が比例・反比例であることを判断し、表現できる力を付けることを強調し、生徒が単元のゴールを意識して主体的に学習に取り組めるようにする。

また、終末に「振り返りシート」を記入させ、本時の学習で理解したことや課題などを記入させることで、今後の学習意欲につなげたり、生徒の変容を見取ったりする。

第Ⅳ章

《努力を要する状況になりそうな生徒への支援》

〈個人思考〉 2つの数量関係を表で表現する場面

【支援1】 正方形が1つのときの高さなどを1組ずつ丁寧に確認し、表を作らせる。また、終わった生徒に相談するように促す。

〈単元の見通し〉 身近な関数関係を見いだす場面

【支援2】 関数といえる具体的な例や、関数とならない例を取り上げる。

(3) 展開



1 単位時間の問題文



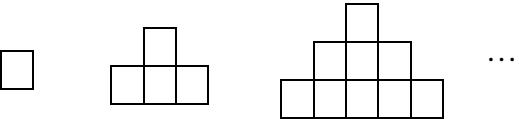
1 単位時間の学習課題



まとめ



白抜き 研究との関わり

教師の活動	生徒の思考と手立て																																										
<p>1 問題提示 「1辺2cmの正方形を次の図のように規則正しく並べていく。</p> <p>1段目 2段目 3段目</p>  <p>段数が増えるにともなって変わるものを見つけよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高さ ・横の長さ ・全体の面積 ・頂点 ・辺の数 ・周の長さ ・角の個数 など 																																										
<p>2 課題設定 「これらはどのような変化をしていると言えるのだろうか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて増えていく（大きくなっていく） ・増え方がものによって異なる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">段数とどのような関係があるだろうか。</p>																																										
<p>3 個人思考 「2つの数量関係を表す方法はどんなものがあつただろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの方法が出ない場合は小学校の既習事項を振り返らせる。本時では表のみを扱う。 ・① 高さ ② 横の長さ ③ 面積について考えさせ、表にまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表 ・式 ・グラフ <p>【支援1】</p> <p>「正方形が1つの時の高さは？」</p> <p>「正方形が2つになるとどうなる？」</p>																																										
<p>4 集団思考 「それぞれの数量関係を表にまとめてみましょう。」</p> <p>「これらを式にすることもできます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式が作れそうな生徒がいれば指名するがここではあくまでも紹介程度とする。 	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>① 表</td> <td>段数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>…</td> <td>式 $y = 2x$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高さ</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>…</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>② 表</td> <td>段数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>…</td> <td>式 $y = 4x - 2$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>横の長さ</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>…</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>③ 表</td> <td>段数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>…</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>面積</td> <td>4</td> <td>16</td> <td>36</td> <td>…</td> <td>式 $y = 2x^2$</td> </tr> </table>	① 表	段数	1	2	3	…	式 $y = 2x$		高さ	2	4	6	…		② 表	段数	1	2	3	…	式 $y = 4x - 2$		横の長さ	2	6	10	…		③ 表	段数	1	2	3	…			面積	4	16	36	…	式 $y = 2x^2$
① 表	段数	1	2	3	…	式 $y = 2x$																																					
	高さ	2	4	6	…																																						
② 表	段数	1	2	3	…	式 $y = 4x - 2$																																					
	横の長さ	2	6	10	…																																						
③ 表	段数	1	2	3	…																																						
	面積	4	16	36	…	式 $y = 2x^2$																																					
<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関数、変数の意味を確認する。 																																											

6 単元の見通し

「5章では、このような関数関係にあるものを表や式、グラフなどで表す学習をします。実は私たちの身近にはたくさんの関数であふれています。例えばコピー用紙の枚数と厚さの関係、あるいは電子レンジで食品を温める時の力と時間…この単元では、コピー用紙や電子レンジに隠れている関数をレポートにまとめます。最終的には自分で関数関係にあるものを見付け、その関係をレポートにまとめ、人に分かりやすく説明することを目標とします。」

「では、私たちの身近にある関数を見付けてみましょう。比例や反比例は小学校で学習していますが、それ以外でも構いません。そしてどのような関係があるか説明できそうな人は説明してみましょう。」

- ・レポート①に取り組む

(予想)

- ・水を入れるときの時間と水量
- ・歩くときの時間と距離 など

【支援2】

「例えば、ドーナツを買うとき、個数と金額はどうなる？」

「身長 170cm の人の足のサイズが全員 27.5cm になる？」

指導に生かす評価

【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】

<何を>身近にある関数関係にある事象を探そうとしているか

<どこで> 6 単元の見通し

<何で> • レポート①(予想) • 観察 • 振り返りシート

<手立ては> • 一方が決まると、もう一方がただ一つ決まる例をいくつか挙げる。

7 本時の学習について振り返らせる。

- ・振り返りシートを記入する。

第IV章

7 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

①研究と本時の授業の関わりについて（授業者より）

- ・生徒の実態として、関数に対しての苦手意識をもっている。そのため、単元のスタートで今回の学習のゴールを具体的に共有し、見通しをもたせることが必要だった。さらに、関数を自分たちの生活と結び付けることで、身边に捉えさせたいと考えた。
- ・本時については、学習内容を1時間に詰め込みすぎた。2時間構成で活動に余裕をもたらせ、振り返りの時間を充実させられるとよかったです。
- ・抽出生徒については、学習内容を理解できていないことが多く、聞かれていることに対して答えられないことがある。ただ、本時では自分で関数を見付けることができていた。

②研究内容（3）指導計画・評価計画について

- ・単元として、関数を身近な事象として捉えさせる構成がよかったです。また、レポート0, 1, 2の位置付けや、振り返りシートの活用により、生徒がゴールを見据えて学習に取り組んでいくことができると感じた。

③研究内容（4）観点ごとの総括について

- ・十分満足できると判断するためには、具体的な基準が必要だと感じた。何を見て粘り強さと捉えるのかが不明瞭だった。
- ・振り返りの記述から判断する評価について、抽出生徒Aについては、友達の考えを生かし自分なりの解答を記述していたため、A評価ではないかという意見があった。一方で、授業者が取り上げた例を参考にすることで、自分の考えを記述することができていたが、内容としては1つしか書かれていないため、B評価ではないかななど、判断に違いが見られた。そのため、記述している量や、内容（次学年の学習にまで関心をもっている等）によって、どのような判断をするのか、評価規準をより具体的にしておく必要があると感じた。
- ・3択から選んだ関数についての理由を問い合わせたり、自分が予想した身近な関数について友達との交流場面を設定することにより、関数に対しての考えが広がったり、もっと知りたいという思いにつながったりしたのではないか。

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班 主任指導主事 佐藤 鮎美》

- ・生徒全員が発言することができる場面を設定するなど、生徒の実態を考慮した授業であった。
- ・本時は、単元の導入であり、「身边にある関数関係にある事象を探そうとしている」生徒の姿から「主体的に学習に取り組む態度」を評価する計画となっていたが、「主体的に学習に取り組む態度」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面や、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価することに留意していただきたい。
- ・資質・能力を身に付けた生徒の姿を評価規準として設定することにより、指導者間の評価のずれを防ぐことができるとともに、生徒にも本時の到達目標を具体的に把握させることができる。

《旭川市教育委員会教育指導課 指導主事 角地 祐輔》

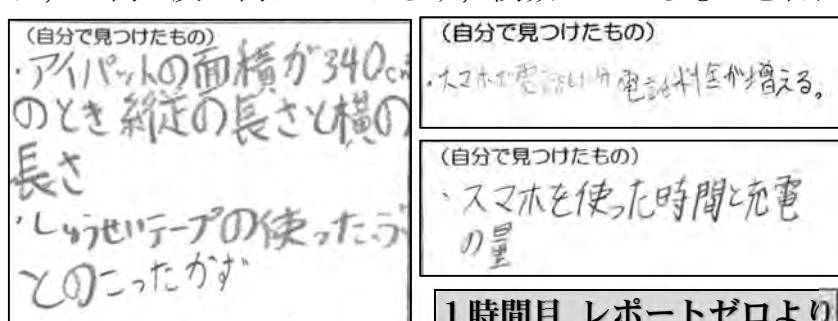
- ・生徒の実態を踏まえ、単元の学習内容の順序を入れ替えるなど、単元の構成が工夫されており、教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力が明確な単元の指導計画となっていた。
- ・本時は、生徒に単元全体の見通しをもたせることを意図した単元の導入の時間となっており、生徒自身が単元の学習を通して何ができるようになると良いのか、何が分かると良いのかを理解できるよう工夫された授業となっていた。数学科に限らず、各教科等でも参考としてほしい。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価計画については、単元の後半の16時間目に知識・技能、19時間目に思考・判断・表現とそれぞれ一体的に評価し、記録に残すこととなっており、適切に設定されていると考える。なお、20時間目の評価については、必ずしも単元の最後の時間に記録に残す評価を設定しなければならないものではないことや、どのような資質・能力を見取ろうとしているのかということを踏まえ、検討すべきである。学習評価は、児童生徒の資質・能力を育成するために、学習状況を評価するものであるため、評価自体が目的とならないよう留意する必要がある。

8 事後分析

(1) 単元における指導に生かす評価と記録に残す評価を位置付けた評価計画について

本単元は、比例・反比例について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する学習内容となっている。本単元を苦手とする生徒は非常に多いため、興味・関心をもって関数の学習を進めることが難しい。そこで、生徒が粘り強く学習を進められるよう、「①コピー用紙と厚さ（比例）②電子レンジの電力と時間（反比例）③自分で見つけた比例・反比例といえるもの」の3つのレポート作成を通して、関数が日常生活に結び付いていることを実感させる工夫をした。授業の中では、身边にある比例・反比例といえるものについて随時取り上げた。評価については、主に小テストで知識・技能、レポートで思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度における記録に残す評価を行った。また、授業ごとに指導に生かす評価をし、振り返りシートの記述やテストの結果などから調整を図り、授業改善に努めた。

レポートゼロ（1時間目）では、比例・反比例にこだわらず、関数といえるものを自由に挙げさせた。中には比例・反比例以外にも一次関数を例として挙げている生徒も複数いた。最終的には①～③のレポートを作ることと、私たちの身の回りには関数関係といえるものがたくさんあることを確認することで、苦手意識をもたずに、粘り強く学習を進める生徒が多くなった。また、振り返りシートに『比例・反比例といえるもの』の欄を作ることで、最終レポートの作成に向けて意欲的に関数を探す姿も見られた。



1時間目 レポートゼロより

指導に生かす評価を振り返りシートや毎時間の授業で行うことにより、生徒の困り感を把握し、柔軟に指導計画を変更することができた。レポート①では、問題の答えを求める際に比例の式ではなく比例式の性質を用いて答えを求める生徒が多かった。そのため、具体的な事象から比例・反比例の式に代入して答えを求める方法を再度確認した。その結果、レポート②では、式に数値を代入して答えを求める生徒が多くなった。

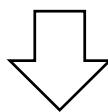
第IV章

Q.3 コピー用紙800枚の厚さを求めよう。また、求め方を説明しよう。

64 mm

(求め方) 100枚のとき、8cmいたから、それを8倍した。

式に代入することで答えを求めるよさを再確認！



Q.2 ⑦に当てはまる時間を求めよう。また、求め方を説明しよう。

50 秒

(求め方) $75000 \div 1500$ $y = \frac{75000}{x}$ に代入する。

【生徒 A】 レポート①では比例の式に代入せずに答えを求めているが、指導に生かす評価を踏まえて、式に代入することで答えを求める方法を再確認。レポート②では代入することで答えを求めている。

レポート③では、事前に最終レポートアンケートをとり、自分が調べるレポート課題を事前に把握することで、一人一人の課題が比例・反比例であるかどうかを確認することができた。また、問題を自由に設定させることで、ユニークなレポートが数多く提出された。感想の中にも、レポート作りを通して理解が更に深まったなど、前向きな意見が多数見られた。

問題 視力が1.5の時のランドルト環の隙間の長さを求める。
ただし、ランドルト環の大きさと環の隙間の長さの比は5:1
で、視力が1.0の時の環の隙間の長さは1.5cmである。
※ 視力 (x) と ランドルト環 (y) は (比例・反比例) の関係がある。

① x と y の関係を表・式・グラフにまとめる

表	グラフ
x 0.1 0.2 0.3 0.5 0.6 1.0 1.2 1.5 2.0 y 15 7.5 5 3 2.5 1.5 1.25 1 0.75	

式

(求め方) $y = \frac{15}{x}$ $y = \frac{15}{1.5} = 1$ 視力が1.5
ランドルト環の大きさ...1cm
元に1.5を代入する。

比例定数は1.5

② ①に関する問題をつくり、答えを求める

【問題】 ケニア人の視力は8.0である。この時のランドルト環の隙間の長さを求める。

【求め方】 $\langle 式 \rangle 1.5 \div 8 = 0.1875$ $0.1875\text{cm}=1.875\text{mm}$ 【答え】 1.875mm

問題 太陽光パネルの蓄電時間とあたる電気量 2時間で100たまる
※ 蓄電時間 (x) と あたる電気量 (y) は (比例・反比例) の関係がある。

① x と y の関係を表・式・グラフにまとめる

表	グラフ
x 1 2 3 ... 10 ... 50 ... 100 ... 1000 y 50/100/50 500 2500 5000 51000	

式

(求め方) $y = 0x$ $x = 0$
 $x = \frac{100}{50}$
 $x = 2$
 $x = 10$

$y = 50x$

② ①に関する問題をつくり、答えを求める

【問題】 100電気量をまかねうには、4562文要何時間でたまる？

【求め方】 $4562 = 50x$ $x = \frac{4562}{50}$ $x = 91.24$ $y = 4562 \div 100 = 45.62$ 【答え】 91.24時間

【生徒 B】 ランドルト環と隙間の長さについて

③ 『5章 比例・反比例』の学習を終えて【感想】

最初は意味が分からなかった。表・式・グラフも今になくては楽しくない。
今回のレポートつくりのお手本で、さらに理解が進むたと思う。
特に今回のレポートは身近な生活(メトロハム)を生かし、見つけた比例などで何とかもあもしろがった。

④ 『5章 比例・反比例』の学習を終えて【感想】

-比例と反比例のレポート作成、すごく難しかったです。自分で求め方や、書き方を自分で考え出すのが大変でした。
でも、レポート作成の手順を決めてから、また、レポートをつけて書きなればうれしくなります。

【生徒 D】

レポート作りを通して、理解が深まるだけでなく、身近にある関数に興味・関心をもつことができている。

【生徒 E】

数学に対して苦手意識が強い生徒。比例のレポートを自力で作成することができた。

③『5章 比例・反比例』の学習を終えて【感想】

- 自分で問題をつくり、レポートを作るのが楽しかったです。
- 反比例のグラフをかくことが難しかったです。
- 反比例は、 x をすれば比例定数を求められることがわかりました。
- 生活の中にも比例、反比例があることに気がかりました。

【生徒F】

生活の中に比例・反比例があることに気付くことができた。

19時間目 レポート③より

レポート作成により、身近にある関数関係に気付きながら生徒が意欲的に学習に取り組むことができた。また、単元構成を『比例』『比例の活用』『反比例』『反比例の活用』の順に変更したことも、生徒の理解を深めるためには非常に有効であった。

一方で、目標がレポート作成に集中しすぎたこともあり、表や式、グラフの読み取りに課題が残った。振り返りシートでも『分からなかった・できなかった内容』に読み取りへの苦手意識の記述があったにも関わらず、具体的な対策・指導を行うことができなかつた。レポート作成を目標とするのはよいが、本単元で身に付けるべき力を高めるため、多くの問題を解いたり、練習時間を確保したりすることが求められる。

(2) 本時における見取り方とその判断について

本時は、「具体的な事象の中にある2つの数量関係の変化や対応の様子を捉え、関数関係にある身近な事象を見付けようとしている」を目標とした単元の導入（1時間目）の授業である。問題提示の場面では、生徒とのやり取りを通して問題の意味を全体で確認した。オープンエンドの問題を提示することで、どの生徒も段数が増えるにともなって変わるものを見付けることができた。変化の様子を表にまとめる場面では、表の作り方を理解していない生徒がいたため、例を挙げるなどしてもっと丁寧に指導すべきであった。関数の意味を確認する場面では、主に教師の説明中心になってしまったため、さらに言語活動を充実させる必要がある。

その後の指導に生かす評価場面となるレポートゼロでは、関数関係にあるものを選択する問題と、身近にある関数関係にあるものを探す2つの問題を提示した。関数関係を選択する問題では、ほとんどの生徒が関数といえるものを正しく選択しており、関数の意味は概ね理解しているように感じた。しかし、理由が書けない生徒もいたため、今後、理由を書けるように指導していく必要がある。身近にある関数関係を見つける問題については、比例・反比例に限定してしまうと難しくなるため、ここでは関数であれば何でも良いことを確認し、自由に見付けさせた。教室の中を見渡す生徒や、筆箱の中を見る生徒など、身近にある関数を探そうとする姿が見られた。それぞれが見付けた『関数関係といえるもの』を交流する時間を確保することができなかつたため、展開の仕方や指導計画の時数などを工夫する必要がある。

問1 次の①～③で、関数関係にあるものを選ぼう。また、その理由を答えよう。

- ① 1個50円のお菓子を買った個数と代金
- ② 身長170cmの人の血液型と靴のサイズ
- ③ 面積が 24cm^2 の長方形の縦の長さと横の長さ

- ① お菓子を1個買ったら50円 2個買ったら100円だから
③ 身長が違うたら横は違うから

- ① 1個50円のお菓子を買った個数と代金
- ② 身長170cmの人の血液型と靴のサイズ
- ③ 面積が 24cm^2 の長方形の縦の長さと横の長さ

①, ③

選択のみで、理由が書けていない。

知識を相互に関連付け、問題を見い出して解決策を考える姿を目指すために、
個の問いの顕在化、切実な課題の設定を図る学習

日 時 令和3年11月11日（木）5校時 実施
生 徒 旭川市立陵雲小学校 6年2組 29名
指導者 森下 ほのか

1 単元名 目的や条件に応じて、計画的に話し合おう
「みんなで楽しく過ごすために」

(光村図書 6年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容（抜粋）は、次のとおりである。

【学習指導要領】～第6学年（国語科）の目標と内容～

1 目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。
- (2) 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

【1 知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○言葉の働き

ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

- (2) 情報の扱い方に関する事項

○情報の整理

イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

【2 思考力、判断力、表現力等】

A話すこと・聞くこと

○話題の設定、情報の収集、内容の検討

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

○話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）

オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

第6学年では、目的や条件に応じて計画的に話し合うことを学ぶ。そのために、進行計画を立てること、主張・理由・根拠を明確にして自分の考えをまとめておくこと、目的や条件に照らして話し合い、問題点を明らかにしながら協働的に解決策を創出するという手段を学習していく。本単元では、話合い活動を繰り返し設定した。自身の取組について振り返り、新たな課題を見つけた上で話合いを続けることで、自己の変容を実感させたい。

第5学年まで、「考えを広げる話合い」と「考えをまとめる話合い」とを区別させ、合意形成を目指す話合いの学習を続けてきた。また、第6学年の前単元では、質問を通して自分の考えを深めていくという方法についても学習した。本単元においては、学習の集大成として、理由や根拠を明確にし、問題を解決するために試行錯誤しながら、アイデアを生み出していくような話合いを目指したい。

(2) 児童観

自分の考えを述べる力については、児童の個人差が大きい。苦手とする児童は、予め原稿を綿密に作る姿が多く見られる。前単元「聞いて、考えを深めよう」の学習では、話し手の理由や事例が適切なものかを確かめるため、積極的に質問したり、疑問を伝えたりする姿が見られた。しかし、話の方向性にそぐわない単発的な質問から、かえって話合いを混乱させることも多かった。

のことから、目的に沿って話合いを深める力が十分でないと判断した。話し手の言葉を言い換えたり、目的や条件に沿った代替案を提案したりするなど、目的や話題に立ち返って考えることの必要性に気付かせる必要がある。

第4学年から学級会での話合い活動を経験してきたことで、話し合うことには慣れている児童が多い。事前アンケートでは、「話合いが好き」と答えた児童は、約70%であった。一方で、発言が特定の児童に固定化してしまうことも多く見られる。そのため、自分たちで解決させる場面をどの教科でも設定し、一人一人の話合いに参加しようとする意識を高めてきた。

(3) 指導観

本単元では、目的や条件に応じて計画的に話し合うことができるよう、学校生活と関連した話題を設定した。1年生との交流会や他校の6年生との交流会など、児童が目的意識をもち、試行錯誤しながら解決を図っていくことができるよう話合い活動を設定した。

今回の学習では、「目的や条件に応じて計画的に話し合うことができる」という指導事項が重点となる。例えば、「1年生が楽しめるか」「安全であるか」「ルールが分かりやすいか」など、相手の立場を考慮しながら話合いを展開する姿が求められる。そこで、話合いがまとまらない状態を、単元の初めに敢えて経験させた。その経験から、計画的に話し合う力の必要感を高めたいと考えた。

また、単元のゴールに向けた自分の達成状況を把握し、学習を調整しながら取り組むことができるよう、単元全体を見通せる振り返りシートを活用した。以前の自分との変容を確認できるように工夫した。

本時では、2回目の話合いを基に、計画的に話し合うことのよさについて学級全体で吟味していく。1回目の話合いからの成長を実感させることで、話し合うことへの自信や意欲にもつなげたい。

(4) 学びの基盤

学びの基盤に関わり、本学級では以下の点を大切にしてきた。

① 「教室環境の整備」について

- ・主体的に活動しようとする思いを認め、児童作成のポスター等を掲示してきた。

② 「学習規律の確立」について

- ・聞き手によく伝わるように、「結論→理由」という話し方を指導してきた。
- ・話し手への思いやりを大切にできるように、「体を向けて聞き、反応する」という聞き方を指導してきた。

③ 「支持的風土の醸成」について

- ・個性が發揮できるように係活動を充実させ、互いのよさを認め合う経験を積んできた。
- ・学級通信等を活用し、児童の頑張りや成長の発信を続けてきた。

第Ⅳ章

3 単元の目標

- (1) 言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
(知識及び技能) (1)ア
- (2) 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする
ことができる。
(思考力、判断力、表現力等) A(1)オ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや
考えを伝え合おうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

4 単元で取り上げる言語活動

それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

(関連: 思考力、判断力、表現力等 A(1)オ)

5 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 (1)ア)	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (A(1)オ)	粘り強く、伝え合う内容を検討し、学習の見通しをもって考えを伝えようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容（3）指導計画・評価計画

指導に生かす評価、記録に残す評価の位置付け

<指導計画について>

本単元は、「みんなで楽しく過ごすために」とコラム教材「伝えにくいことを伝える」の2つで構成されている。

単元構成については、グループによる話合いを3回繰り返すことで、計画的に話し合うことのよさや、学習を通した自身の変容を児童が実感できるようにした。また、最高学年として1年生に喜んでもらう活動や、中学校進学に向けて必要感がもてるような話題を設定した。学びの実感をより確かなものにし、今後も粘り強く話し合い活動に取り込もうとする態度を育めるようにした。

コラム教材による学習は、1回目の話合い後に学習することで、2回目以降の話合いに活用できるようにした。

時	指導計画	評価計画 (「記録に残す評価」の位置付け)			「主体的に学習に取り組む評価」 における工夫
		知	思	主	
1	議題1 話合いを三回繰り返す				モデルによる観点整理
2		記録			指導事項、児童の実態を基にした観点による個人目標の設定 【指導に生かす評価】
3	議題2 繰り返し、自身の変化を実感				話合いの実際を基にした、個人目標の見直し 【指導に生かす評価】
4					
5	議題3		記録	記録	繰り返しによる資質・能力の確実な定着を図り、評価の信頼性・妥当性を高める工夫 【記録に残す評価】
6					

<評価計画について>

「知識・技能」の評価については、2時間目「伝えにくいことを伝える」の学習を中心に行う。ペア学習や、よりよい伝え方を考える場面での姿から記録に残す評価を行う。

「思考・判断・表現」の評価については、3時間目以降において、話合いや振り返りを交流する姿を中心に行う。互いの立場や意図を明確にして話したり、考えを広げたりまとめたりしている姿を見取っていく。3回目の話合いにおいては、記録に残す評価を行う。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、単元全体を通して評価を行っていく。自分の個人目標を設定することや、振り返りシートを活用し、自身の取り組み方や、改善点について考える姿を実現させていく。2回目の話合いが終わった際には、個人目標を見直す場面を設定し、学習の自己調整が図れるようにする。3回の話合い活動において、粘り強く話合いに取り組んだり、試行錯誤しながら進めていたりする姿を記録に残す評価とする。

(2) 単元の指導計画と評価計画

問題文

学習課題

まとめ

◎目標

記録記録に残す評価

時	主な学習活動	評価方法及び指導上の留意点		
		知・技	思・判・表	主
1	<p>◎目的や条件に応じて話し合う活動について、学習課題を設定し、見通しをもつことができる。</p> <p style="text-align: center;">主体的な学び</p> <p>○これまで行ってきた話合いを振り返る。</p> <p>○今後の活動や将来に、今回学習する話合い活動がどのように生かされていくかを考える。</p> <p>○単元のゴールを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 目的や条件に応じて、計画的に話し合う力を身に付けよう。 </div> <p>○よい話合いの映像を見て、観点を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿って話している ・具体的な意見を述べている ・全員が参加している ・質問をして考えを広げている ・共通点や相違点を見付けまとめている <p>○現時点での自分の実力を確かめるために、グループで話合いを行う。</p> <p>議題1 「12月の朝学習の時間で、全校で何をするとよいかを決めよう！」</p> <p>○司会を決め、個人目標を立てる。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> これから話合いに必要な力を身に付けて、将来に生きる話合いのスキルを身に付けるぞ！ </div>		<p>・観察 ・振り返りシート</p> <p>指導の手立て</p> <p>単元のゴールに対して自己目標を設定させる。話合いごとに振り返りを行わせ、学習の達成状況を確認させる。</p> <p>自己調整の場を設け、自己的課題を修正させる。</p> <p>(以下同様に指導する。)</p>	

第Ⅳ章

2	<p>◎話合いに向けて、進行計画を立てたり、伝えにくいことをどのような伝え方をすれば相手に受け止めもらえるかを考えたりすることができる。</p> <p>○課題を把握する。 話合いに向けて、進行計画を立てたり、適切な伝え方を学んだりしよう。</p> <p>○進行計画と役割を確認する。 進行計画 ①一人ずつ意見を出し合う ②質問（考えを広げる話合い） ③結論（考えをまとめめる話合い）等</p> <p>○「伝えにくいことを伝える」を読み、様々な場合のよりよい伝え方について考える。</p> <p>○どのような口調や表情が適切か、ペアでの実演を通して感じ方を体験する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。 今日学んだことを生かして、次の話合いでも相手への伝え方を意識していきたいな！</p> <p>○1年生の担任からのビデオレターを見て、次時からの学習への意欲を高める。</p>	<p>記録 ・観察 ・振り返りシート</p> <p>指導の手立て 伝えにくいことを伝えるときの口調や表情に着目させ、どのような伝え方が適切か、実演し、選択させる。</p>	<p>・観察 ・振り返りシート</p> <p>指導の手立て やり取りの目的を理解させ、どのように話したり、聞いたりするとよいかを考えさせる。また、教科書の例を参考にしながらどのように表現するかを考えさせる。</p>	<p>・観察 ・振り返りシート</p>
3 ・ 4 本 時	<p>◎個人目標を解決するために、目的や条件に応じて計画的に話し合ったり、他グループの話合いを見て振り返ったりすることができる。</p> <p>○学習計画を確認する。</p> <p>○課題を把握する。 交流会を成功させるために、目的や条件に応じて計画的に話し合おう。</p> <p>○議題2を確認する。 「1年生と楽しく遊んで仲良くなるために行う、交流会の遊びを決めよう！」</p> <p>○ビデオレターの内容を基に、交流会の条件を整理する。 ①1年生にも難しくない遊び ②危険のない遊び（怪我・コロナ） ③○月○日体育館（1／6スペース）○分間</p> <p>○各グループで進行計画を確認する。</p> <p>○自分の意見を、主張・理由・根拠を明確にしながら考え、ノートに記入する。</p> <p>○前半グループ（3グループ）が話合いを行う様子を、ペアのグループが見て評価する。</p> <p>○話合いをペアのグループごとに振り返る。</p> <p>○成果や課題について振り返りシートに記入し、全体で交流する。</p>	<p>・ノート ・振り返りシート</p> <p>指導の手立て 自分の意見をもたせるために、これまで行ってきたお楽しみ会での遊びを振り返らせる。また、理由や根拠を書くために、必要に応じて友達にアドバイスを求める時間を設ける。</p>	<p>・動画 ・振り返りシート</p>	<p>（以下同様に指導する。）</p>

	<p>○進行計画・役割・自分の意見を確認する。</p> <p>○後半グループ（3グループ）が話し合いを行う様子を、ペアのグループが見て評価する。</p> <p>○話し合いをペアのグループごとに振り返る。</p> <p>○「共通点でまとめる方法」の具体について全体で共有する。</p> <p>○成果や課題について振り返りシートに記入し、全体で交流する。</p> <p>計画的に話し合うことで、前より目的や条件に沿って話し合えるようになったね！</p> <p>○前後半の話し合いから、次回の話し合いの個人目標を決め、見通しをもつ。</p>		
5 ・ 6	<p>○個人目標を解決するために、目的や条件に応じて計画的に話し合ったり、他グループの話し合いを見て振り返ったりすることができる。</p> <p>○学習計画を確認する。</p> <p>○課題を把握する。</p> <p>末広北小の6年生と仲を深めるプロジェクトを決めるために、目的や条件に応じて計画的に話し合おう。</p> <p>○議題3を確認する。 「末広北小の6年生と仲を深めるためのプロジェクトを決めよう！」</p> <p>○プロジェクトの条件を確認する。 ①お互いを知ることができる ②直接会わずにできる ③準備が簡単である</p> <p>○各グループで進行計画を確認し、役割を決める。</p> <p>○自分の意見を、主張・理由・根拠を明確にしながら考え、ノートに記入する。</p> <p>○前半グループ（3グループ）が話し合いを行う様子を、ペアのグループが見て評価する。</p> <p>○話し合いをペアのグループごとに振り返る。</p> <p>○成果や課題について振り返りシートに記入し、全体で交流する。</p>	記録 • ノート • 振り返りシート	記録 • 動画 • 振り返りシート
	<p>○進行計画・役割・自分の意見を確認する。</p> <p>○後半グループ（3グループ）が話し合いを行う様子を、ペアのグループが見て評価する。</p> <p>○話し合いをペアのグループごとに振り返る。</p> <p>○成果や課題について振り返りシートに記入し、全体で交流する。</p> <p>○これまでの学習について振り返り、交流する。</p> <p>今回学んだことを生かして、卒業式に向けた話合いや中学校での話合いに生かしたい！</p>	主体的な学び 対話的な学び	

第Ⅳ章

7 本時の学習（6時間扱い 4／6）

(1) 目標

- ・ 個人目標を解決するために、目的や条件に応じて計画的に話し合ったり、他グループの話合いを見て振り返ったりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 伝え合う内容を検討したり、思いや考えを伝えようとしたりして、話合いに取り組もうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時における18次研究との関わり

研究内容（4）観点ごとの総括

個人目標を達成するために、目的や条件に応じて計画的に話し合うことができるようになるための見取り方とその判断

本時は、議題2について話し合う学習の後半部である。話合いの様子や振り返りシートへの記述等を中心に、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取っていく。

まず話合いを行う前に、個人で話したい内容について考えさせる時間を設ける。その後の話し合い活動の際は、努力を要する児童を中心に学習状況を把握し、適宜指導していく。活動の終了後は、それぞれが自身の個人目標について、「何ができる、何ができなかつたか」を振り返り、次時に向けた課題を確認できるようにする。その際には、話合いを見た児童からのアドバイスや教師による助言を受けたりすることで、自らの話合いに対する取組についてしっかりと振り返ることができるようになる。「振り返りシート」には、本時の学習を通して何ができるようになったのか、どんな工夫をしたのかを継続して記入させていくことで、学習への意欲と自己調整の力を高めていく。

《努力を要する状況になりそうな児童への支援》

【話し合いの場面での支援策】

- ・ 話し合う際の言語面における課題が見られる際は、教科書の「言葉の宝箱」やこれまでのノートを振り返らせ、話し合う際のポイントを確認させる。
- ・ 自分の課題が意識できない様子が見られる際は、振り返りシートから自己目標を確認させたり、本時で修正するポイントについてアドバイスをしたりする。

【振り返りの際の支援策】

- ・ 振り返りの記述が進まない児童が見られる場合は、本時の活動での目的や手応え等について、児童とやり取りをしながら、自身の成長や課題についての発言を引き出していく。

(3) 展開

1 単位時間の問題文

1 単位時間の学習課題

まとめ

白抜き 研究との関わり

教師の活動	児童の思考と手立て
1 これまでの学習を確認する。 ・パワーポイントでこれまでの学習を確認する。 ・前時に行った前半グループの話合いを受けて、本時では後半グループが話合いを行うことを伝える。	「計画的に話すことの大切さを学んだよ。」「いよいよ話合い、楽しみだなあ。」
2 本時の課題を設定する。	交流会を成功させるために、目的や条件に応じて計画的に話し合おう。
・交流会の目的・条件・進行計画・役割・自分の意見を確認する。	「個人目標を達成できるような話合いにしたいな。」「前回の話合いよりもよい話合いができそうだ！」
3 グループごとに進行計画に沿って話し合う。 ・ホワイトボードを活用する。 ①話合いの進行に合わせて進行計画を貼っていき、その様子を動画に残す。 ②それぞれから出た意見を貼り、円滑に話合いが進むよう活用する。	「個人目標を意識しながら話し合おう！」 ・目的に沿って話している ・具体的な意見を述べている ・全員が参加している ・質問をして考えを広げている ・共通点や相違点を見付けまとめている
<p style="text-align: right;">●指導に生かす評価【思】【主】</p> <p>全体を見ながら、1つのグループを中心に見取る。その際、努力を要する児童を把握する。</p>	
<p>【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】</p> <p><何を> 全体の話合いにおいて、以下の3つの条件を満たして話し合おうしている。 ①【意見を述べる】ノートを基に、相手に自分の意見を伝えている。 ②【質問で話を深める】相手の話した内容について、適切に質問している。 ③【共通点を見付けまとめる】結論に向け、意見を整理しまとめている。</p> <p><どこで> 話合い、振り返りシートに記入する場面</p> <p><何で> 話合いの観察、振り返りシート</p> <p><手立て> •言語面でのつまずきには、教科書「言葉の宝箱」やノートを振り返らせたり、机間指導でアドバイスをしたりする。 •内容面でのつまずきには、目的をしっかりと理解させたり、振り返りの時間を設け次時に向けて修正させたりすることで自ら考えさせる。</p>	
4 話合いをグループごとに振り返る。 「1回目の話合いと比べて、よくなった点は何ですか？」 「観点と照らし合わせて、さらによくできそうな点は何ですか？」	「前回は時間以内に決まらなかつたけど、結論までたどり着けたね。」「目的に沿って話し合えたから、1年生が困らないようにルールを工夫することができたね！」

第Ⅳ章

- 5 「共通点でまとめる方法」の具体について全体で共有する。
- 具体的な例を挙げ共通点でまとめる方法について考えさせる。

- 6 成果や課題について振り返りシートに記入し、全体で交流する。

・個人目標への評価とその理由を記入する。

「この学習を通してどのような力が身に付きましたか？」

「個人目標を達成するためにどのように取り組みましたか？」

- 7 前後半の話合いから、次回の話合いへの見通しをもつ。

「共通点でまとめるやり方が分かった！」
「次の話合いで使ってみたい！」

●指導に生かす評価【思】【主】

振り返りの記述を基に、児童の変容を見取る。

主体的に学習に取り組む態度

「具体的な意見を述べるために、遊びの内容だけではなく、細かいルールやグループ分けを工夫すべきという意見を積極的に出し、話合いを深めることができた。」（粘り強さの例）

「今回、私は一人でしゃべりすぎてしまうことが多かったので、次回は、司会として話を振ったり、認め合う言葉掛けを意識したりすることでみんなが参加する話合いにしたい。」（自己調整の例）

計画的に話し合うことで、前より目的や条件に沿って話し合えるようになったね！

(4) 板書



7 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

①研究内容（3）指導計画・評価計画について

- ・単元の目標がゴールイメージとして児童と十分に共有されていた。また、目標を達成するための話し合いの方法についても児童と共有されていた。
- ・単元を通して、3回繰り返す話し合いにより、児童の自己調整の場面が設定されており良かった。しかし、話し合いの内容については、3回とも同じテーマにするのか、毎回変えるのかは検討する余地があるのではないか。
- ・振り返りシートを活用することで児童が自己調整する様子が見られて良かった。ノートやICT端末と合わせて振り返りシートを活用することは有効であった。
- ・単元の終末に評価する際にタブレットの録画機能を使用するが、それは評価の負担が大きいのではないか。

②研究内容（4）観点ごとの総括について

- ・個人で振り返る場面を設定しているのがとても良かった。
- ・児童aは、うなずきや話し合いの内容を深掘りしていた。実際の見取りとしてはA（十分満足できる）として評価できるのではないか。児童bは、振り返りシートに将来の中学校に向けての記述が見られた。本時の様子から考えて、将来のゴールイメージをもたせられたことが、児童bの粘り強さを引き出していたように思う。
- ・他の単元や日常の授業でも言えることだが、人数が多くなると見取りづらくなる。見取る視点を明確にすることが必要である。
- ・振り返りシートの記述や児童のうなずきの様子はよく見取ることができるが、話し合いの内容を深掘りしていたかどうかは見取りづらい。適切に見取るための方法が課題である。
- ・振り返りシートの記述に「最高の話し合った」と書かれていた。これは、教師が児童に求めるA基準が、児童と共有されていたからだと思われる。

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班 主任指導主事 佐藤 由佳》

①「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

- ・評価の観点が、従前の「関心・意欲・態度」から「主体的に学習に取り組む態度」に変更になったが、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方は基本的に変わっていない。ただし、これまで一生懸命取り組んでいれば「十分満足できる」状況と判断されるなど、児童生徒の性格や行動の一面を評価する状況が見られたことから、「主体的に学習に取り組む態度」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面や、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価するということが、改めて強調され、観点名が変更となったところである。「主体的に学習に取り組む態度」は、児童生徒がもっている力を評価するのでは

なく、教師が単元のどの場面で、児童生徒に粘り強さと自己調整力を發揮させたいかを明確にし、単元に評価場面を位置付け、評価することが大切である。また、評価規準の設定に当たっては、国立教育政策研究所から発刊されている「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考にしていただきたい。

- ・他の班からのアドバイスを受けて、次の話合いをどのように進めたいかを振り返りシートに書かせるなど、児童自身が次の学習に向けた自己調整をする場面を位置付け、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に活用していることは、大変よい取組である。「主体的に学習に取り組む態度」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、自らの学習をどのように調整しようとしているかを評価することから、指導事項に基づいた振り返りを行うことができるよう、教師から振り返りの視点を事前にきちんと指導し、振り返りシートの記入を行わせるようにする必要がある。

②「学びに向かう力、人間性」の涵養について

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、「学びに向かう力、人間性等」の観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分を評価するものである。各教科等においては、「学びに向かう力、人間性等」の目標が示されていることから、感性や思いやりといった観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分についても、年間を通して指導のねらいを設定し、個人内評価で見取っていくことが大切である。特に、国語科においては、言語感覚という文言が教科の目標に示されており、言語感覚は国語全体に対するものであるため、観点別学習状況の評価で全てを見取ることはできない。具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現するのが適切であるかを直感的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることが大切である。例えば、高学年の「知識及び技能」の「語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」という指導事項を身に付けさせるようにするなどして、自覚的に言葉やその使われ方に対する感性を磨いていく必要がある。

③今後の研究推進に向けて

- ・上川教育研修センターの協力校授業では、評価基準（A～C）が設定されているが、学習指導要領においては、全ての児童生徒に資質・能力を確実に身に付けさせることが求められていることから、本時で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、「おおむね満足できる」状況（B）を達成した児童生徒の姿を評価規準として明確に位置付けることが重要である。教師が1時間の授業の中で、3つ（A～C）の評価基準に照らして全ての児童生徒を評価することは、評価に終始してしまう恐れがあることから、評価規準以上の姿が見られれば「十分満足できる」状況（A）、それ以下であれば「努力を要する」状況（C）として、評価の精選を図っていくことが大切である。また、「努力を要する」状況（C）の児童生徒が見られる場合には、「おおむね満足できる」状況（B）にするための手立てを講じていくことが大切であることから、今後も上川教育研修センターの今年度の取組を管内に発信していただきたい。

＜参考＞

平成3年の文部省の指導要録の改訂通知において、観点別学習状況の評価が効果的に行われるようするために、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するための拠りどころを意味するものとして、「評価規準」の概念が導入されました。

従来から、観点別学習状況の評価を適切に行うため、教育委員会や学校では目標の達成の度合いを判断するための基準や尺度（評価基準）などの設定について研究が行われてきましたが、「目標を十分達成した（A）」、「目標をおおむね達成した（B）」及び「達成が不十分（C）」ごとに詳細にわたって設定され、結果としてそれを単に数量的に処理することに陥りがちだったとの指摘がありました。

あまりにも細部にわたる評価基準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、教員にとって過大な負担につながり、評価のための評価に終わるなど、指導の改善に生かすことができなくなる恐れがあることに留意することが大切です。

実際の学習指導における評価では、「何を評価するか」という質的な面を評価することが大切であることから、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するための拠りどころである評価規準を設定することが求められています。

8 事後分析

(1) 単元を通した指導計画と評価計画について

互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりする姿を目指すためには、資質能力が發揮できる場面を図ることができる指導計画が必要である。さらに、1単位時間ごとに適切に見取ることで、生徒の学習状況を把握し、その都度、指導の改善を行いながら指導計画を進めることが必要である。

本単元では、話合いを繰り返し設定することで、自分の関わり方について振り返り、新たな課題を見つけ、それを乗り越えるために改めて話合いを行うというプロセスを組んだ。計3回の話合いを行ったことで、十分に時間をかけて言語活動を行うことができ、目標とする姿により近付くことができた。その一方で、一人一人の話合いの様子を教師が見取ることが難しいという課題があったため、iPadを活用し話合いの様子を記録したり、毎時間ワークシートを回収し、話合いにおいて支援が必要な児童を把握しておいたりすることで、評価に生かすことができた。

主体的に学習に取り組む態度の評価においては、思考・判断・表現と一体的に見取った。見取る上で以下の3点を大切にした。

1つ目は、単元の1時間目に単元終末の言語活動をイメージさせたことである。実際に教師同士のお手本の話合いの映像を見せ、最終的な姿をイメージさせた。その際、やり取りを見て感じたことを伝え合い、やり取りにおける大事な視点を全体で確認、共有した。その後、試しの話合いを行った後、単元の目標と連動した個人目標を設定させた。教師と児童がゴールを共有することで、学習の見通しをもつことができた。

〈1時間目の板書 学習の開始時点（価値付け、見通しをもつ姿）〉



〈教師によるお手本の話合いの映像（よい話し合いの条件を導く）〉



2つ目は、言語活動の中で、意図的に自己調整の場を設けたことである。全6時間の中で3回の話し合いを行い、【話し合い①→振り返り→個人課題の設定→話し合い②→振り返り→個人課題の見直し】という流れで単元を構成した。話し合い①で出た課題を、自己調整の場で自ら解決できるようにした。話し合い②では、1回目の話し合いと比較して自分の変容を実感し、何ができるかできないかを自己分析することで、児童の粘り強さや調整力を育むことができたと実感した。児童ワークシートの記述を見ると、1回目の話し合い後に立てた個人目標から、できることとできなかつたことを分析し、より今の自分に合った個人目標を2回目の話し合い後に考えられていることがわかる。また、1回目の個人目標を達成できたと判断した場合には、レベルアップした個人目標を設け、自分の話し合いにおける力を高めようとする意欲が感じられた。

〈児童Aの変容〉

1回目の話し合い後に立てた個人目標

他の人の意見を深くほりさげたり、友達の意見を聞いてるときは、うなずいたりして反応したい。

2回目の話し合いの振り返り 個人目標達成度（5段階）【5】

前回と比較して、前に話し合いをしたときより、話が止まらずに、すんなり進んでいたので自分は最高の話し合いができたと思います。個人目標を達成できました。

ほかにも、司会が話をふるのが上手だったり、自分は他の人が言った意見の内容を深くほり下げたり質問を積極的にすることができたので満足しています。

2回目の話し合い後に立てた個人目標

自分の意見をもう少し具体的な内容で発表する。

みんなの意見をもっとたくさん出す話し合いにしたいです。つぎは、うなずいたりして反応したい。

〈児童Bの変容〉

1回目の話し合い後に立てた個人目標

質問を多くしたいと思います。

2回目の話し合いの振り返り 個人目標達成度（5段階）【1】

前回と比較して、比べてるときや出し合うときなどで、もっと意見を出し合ったり、まとめは多数決などで決めたりしないで、もっと他の人にも質問などをする時間を持つ方がいいと思いました。次また司会をしたらそのようなことを常に考えて、比べ合う時間や出し合う時間を作りたいと思いました。

2回目の話し合い後に立てた個人目標

全員参加で、次はみんなが質問できるように時間を取って話し合いをしてみたいと思います。
みんなが好きな意見などを出せるようにしてみたいと思います。

3つ目は、振り返りシートの活用である。振り返りシートに記入させた内容は、何ができる、何ができなかつたのか、どう判断した根拠は何か、単元の目標や個人目標の達成状況などである。児童一人一人が何を課題だと感じ、解決したいかを振り返りシートから把握できるため、行動観察の際に児童への手立てを講じやすくなつた。また、児童の変容も見取りやすくなつた。一方で、自分の考えや思いを上手に言葉に表すことができない児童や記述内容の根拠を明確に書けない児童もいたため、振り返りシートだけに頼るのではなく、授業の中で一人一人をしっかりと見取っていく必要があると感じた。

(2) 本時の指導計画と評価計画について

本時の目標は、「個人課題を解決するために、目的や条件に応じて計画的に話し合ったり、他グループの話し合いを見て振り返ったりすることができる」である。本時は、議題2の「1年生と楽しく遊んで仲良くなるために行う、交流会の遊びを考えよう」について、前時と併せて2時間で完結するよう構成した。前時までの学習では、自分の実力を確かめるために一度別のテーマで話し合いを行っている。その話しでは、うまくやりとりができない児童がいたが、5つの観点と自分を照らし合わせながら個人目標を設定することで、今後の学習の見通しをもつことができた。本時の話しは全3回の話しのうち2回目にあたる。この話しを通して、前回からの変容を実感し、更なる課題を見付け、単元のゴールに向けて自己調整していく。

本時における評価については、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に見取り、指導に生かす評価とした。

主体的に学習に取り組む態度の評価については、話しにおける姿と振り返りシートから見えるそこに至るまでの過程を加味し、評価を行った。今回、振り返りシートに「何ができる、何ができなかつたのか、どう判断した根拠は何か、個人目標の達成状況など」を書かせたことにより、教師側も児童の課題を把握でき、個別に支援することができた。また、努力を要する児童だけでなく、一人一人の課題に目を向け、支援することができ

た。しかし、シートだけでの評価は難しく、振り返りシートの内容が、実際の態度として表出されているかを行動観察する必要があり、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりする中で、一体的に見取ることが重要だと感じた。

【本時の話合い②について】

①課題 「交流会を成功させるために、目的や条件に応じて計画的に話し合おう。」

②具体的な見取り方

【主体的に学習に取り組む態度の具体的な見取り方】

<何を> 以下の3つの条件を満たして話し合おうしている。

- ①【意見を述べる】ノートを基に、相手に自分の意見を伝えている。
- ②【質問で話を深める】相手の話した内容について、適切に質問している。
- ③【共通点を見付けまとめる】結論に向け、意見を整理しまとめている。

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	理由や根拠を明確にして意見を述べたり、関連する質問で話を深めたりしながら①～③の条件を満たしてやりとりをしている。	理由や根拠を明確にして意見を述べたり、関連する質問で話を深めたりしながら①～③の条件を満たしてやりとりをしようとしている。
b	3つの条件を満たしてやりとりしている。	3つの条件を満たしてやりとりしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

③採点の結果

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童 A	a 理由や根拠を明確にして意見を述べたり、関連する質問で話を深めたりしながら①～③の条件を満たしてやりとりをしている。	a 理由や根拠を明確にして意見を述べたり、関連する質問で話を深めたりしながら①～③の条件を満たしてやりとりをしようとしている。

※児童Aは1回目の話合いを受けて、

- ①自分から意見を出すこと
- ②友達の意見を尊重すること
- ③活動内容について掘り下げるこ_とと自己の課題としていた。

※児童Aの振り返りシートの中には、「自分が他の人の意見を深く掘り下げた」という記述がある。机間指導の中で児童Aは、花いちもんめという案に対し、「花いちもんめってどんな感じの遊びですか?」、「コロナだから直接手を繋ぐ遊びはやめた方がいいんじゃない?」と、条件に合わせて質問と提案していたことが確認できた。

〈児童A 振り返りシートに記述〉

試しの話合いをしてみて感じたことは?

もっと意見を自分から出す力が必要だと思いました。他の人の意見や質問に素早く反応する力が足りないと思うから、もう少し自分の意見だけでなく友達の意見を尊重したいと思う。その活動の内容について深く掘り下げるができるようにがんばりたい。

本時の自己評価・理由

自分は他の人が言った意見の内容を深く掘り下げたり質問を積極的にすることができたので満足している。

第V章 研究の成果と課題

1 成 果

2 課 題

研究の成果と今後の課題

上川教育研修センターでは、第18次研究の研究主題を「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」と設定し、研究内容を指導と評価の一体化をテーマに、特に「主体的に学習に取り組む態度」の見取りについての検証を行い、研究を進めてきた。

- 1 目標と手立てが合致した単元の指導計画及び具体的な児童生徒の姿を見取る評価計画を作成すること。
- 2 評価計画で、評価する時期や場面の精選、評価方法の工夫をすること。
その結果、第18次研究2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

第18次研究2年次のまとめ

《 成 果 》

- ① 指導と評価の一体化を実現するために評価計画の中に、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を明確に位置付けて実施することができた。
- ② 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、単元の中で効果的な振り返り場面を設定することで、自己調整を指導することができた。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、振り返りシートを活用することで、自己調整を見取り、指導改善につなげることができた。

第19次研究1年次に向けて

《 課 題 》

- ① 評価規準を明確にするために、「1単位時間の評価で何を評価するのか」、「評価時期はどこが適切か」、「材料は何で評価するのか」、そして、「努力を要する子への手立てはどうするのか」をより具体的にすることで、客観性をもたせる必要がある。
- ② 評価の3つの観点をどこで、どのように一体的に見取るのか、また、見取り方を検討していく必要がある。
- ③ 学習評価の目的として、指導の改善のために行うことが重要であるということの理解を広げるため、一層発信を行っていく必要がある。

あとがき

中学校学習指導要領の全面実施を迎えた本年度、当センターにおいては、「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」を研究主題に掲げ、第18次（2か年計画）の2年次として研究を推進してまいりました。

研究内容である学習評価については、児童生徒にどのような力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようになることが重要であると考えています。

このような指導と評価の一体化について、本年度もコロナ禍という厳しい状況が続きましたが、研究協力校であります旭川市立永山南中学校及び旭川市立陵雲小学校、研究員所属校であります旭川市立東明中学校及び美瑛町立美瑛東小学校に多大なる御尽力をいただきながら、研究授業等を通して、実践的に検証を進めることができました。

そして、この度、研究成果をまとめた紀要第47号を発刊いたします。これもひとえに、北海道教育庁上川教育局並びに旭川市教育委員会の皆様の御指導・御助言、研究協力校の先生方の優れた実践、そして、研究員所属校の先生方の御支援と御協力の賜物であると、心より感謝申し上げる次第です。

本紀要の内容につきましては、改善点等があると存じますが、各学校における校内研修はもとより、個人研究や日常実践等に広く活用していただくとともに、多くの皆様の御批正、御指導をいただくことができましたら幸いに存じます。

次年度は、第19次研究の1年次となります。上川管内の先生方の期待に応え、これまで以上に理論と実践を充実させた研究成果をお示しできるよう全力を尽くしてまいります。

研究事業部長 北 島 裕 二

主　要　参　考　文　献

- ◇学習指導要領（平成29年告示）、学習指導要領解説（文部科学省）
- ◇初等教育資料、中等教育資料（文部科学省）
- ◇中央教育審議会答申（文部科学省）
- ◇「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ◇上川教育研修センター研究紀要 第44号・45号・46号（上川教育研修センター）
- ◇令和3年度小学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- ◇令和3年度中学校教育課程編成の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）

研　究　協　力　校

旭川市立永山南中学校（校長 福澤秀）
旭川市立陵雲小学校（校長 甲斐信太郎）

上川教育研修センター

所長	福家尚	旭川市立知新小学校
副所長	伊東義晃	鷹栖町立鷹栖中学校
事務部長	北澤克康	旭川市立永山西小学校
研究事業部長	北島裕二	美瑛町立美瑛東小学校
研究員	村越恵一	旭川市立東明中学校
	小林豊	旭川市立北光小学校
	石塚大輔	旭川市立中央中学校
	久保田竜平	旭川市立高台小学校
	近田泰斗	旭川市立北星中学校
	三上貴也	旭川市立青雲小学校
指導員	森走平司	旭川市立旭川第三小学校
	加藤慎司	
	平井佐知	
	上村純一	
事務係	笹谷青子	
	上光さゆり	



上川教育研修センター研究担当の指導主事の方々

北海道教育庁上川教育局義務教育指導班
旭川市教育委員会教育指導課

主任指導主事
指導主事

佐藤由佳様
柳澤麻弥様

研究紀要 第 47 号

主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方 ～求められる資質と能力を育む指導と評価～

発 行 令和 4 年 3 月 31 日
発行者 上川教育研修センター
旭川市 6 条通 4 丁目
電 話 (0166) 24-2501
F A X (0166) 24-2512
E-mail:kami-cen@educet.plala.or.jp
印刷所 有限会社 岡本印刷
旭川市 6 条西 5 丁目 1-21
電 話 (0166)-22-0752



試そう上川の力で
創ろう上川の力で
生かそう上川の力で

上川教育研修センター